

平成25年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

平成24年度以降カリキュラム…【1・2年生】

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	心理学		<b>担当者</b>	亀岡聖朗	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位</b>	2単位	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
	教養科目		<b>(時間)</b>	(30時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	ものを見聞きすること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしなやかにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、私たちのそうした心のはたらきを実証的に明らかにすることを目的とした科学である。看護職をめざすものとして、人の心の多様なはたらきについて学修することは、人間理解の一環にもなる。本講義はそうした観点から、人の心の多様なはたらきがどのように明らかにされてきたかについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。							
<b>学習目的</b>	人の心のはたらきについて広く知識を獲得し、人（患者）を理解する基本的態度を習得することを目的とする。							
<b>学習目標</b>	1. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。 2. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。 3. 日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。 4. 人の心の全般的なしくみについて理解する。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	オリエンテーション 心理学で取り扱う問題	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 講義で取り上げる内容、患者心理のメカニズム						
第2回	感覚・知覚の心理学	心と身体の世界 ～外界を捉えるしくみ、知覚の特徴（視覚を中心に）、知覚のズレ						
第3回	認知の心理学①	心と行動の形成① ～ものを覚える／忘れるしくみ、記憶の錯誤						
第4回	認知の心理学②	心と行動の形成② ～注意と思考、人の認知的特性からみた医療事故予防						
第5回	学習の心理学①	心と行動の形成③ ～新しい行動を身につけるしくみ（条件づけ理論と認知理論）						
第6回	学習の心理学②	心と行動の形成④ ～動機づけ理論、動機づけを高めるためには						
第7回	社会的関係の心理学①	対人関係① ～対人認知の諸相						
第8回	社会的関係の心理学②	対人関係② ～話を聞くこと：ノンバーバルコミュニケーションの重要性						
第9回	発達の心理学①	心と行動の発達①～生涯発達の視点、人間発達のしくみ、人生初期の発達						
第10回	発達の心理学②	心と行動の発達②～発達の理論（フロイト、エリクソン、ピアジェを中心に）						
第11回	個人差の心理学①	心の個性と深層～個性を反映するもの（知能と性格）、性格の理論、性格形成の要因						
第12回	個人差の心理学②	医療に役立つ心理テスト～心理テスト（心理検査）の種類（知能検査、性格検査、発達検査）						
第13回	臨床の心理学①	心の適応と障害 ～感情の種類、感情の表出、欲求と適応機制						
第14回	臨床の心理学②	心と身体心理臨床～ストレスと代表的な精神疾患（不安障害、気分障害、統合失調症を中心に）						
第15回	臨床の心理学③	医療に役立つ心理臨床～ストレスへの対処法、カウンセリング理論（精神分析理論、学習理論、自己理論を中心に）						
<b>教科書</b>	藤田主一・山崎晴美編『新 医療と看護のための心理学』福村出版							
<b>参考書</b>	適宜紹介する。							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験90%、レポート・課題等10%							
<b>履修のポイント</b>	授業への積極的な取り組みを期待する。							
<b>オフィス・アワー</b>	曜日・時間等については11号館3階第8研究室にて、もしくは講義終了後などに、適宜設ける。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	教育原論		担当者	占部慎一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
<b>授業の概要</b>	なぜ教育は必要なのか、学びによって人はどのように変化するのか、このような教育に関する基本的事項を学びます。教育の本質、意義、理念、教育思想・方法の類型と変遷、学校の歴史、学校制度を支える法、子どもの可能性を開く新しい学習などが講義形式で説明されます。教職の土台となる科目ですので、詳しくノートを取り、授業終了時の復習および次週の授業開始時の復習時間を使用して、繰り返し理解し覚えてしまうことが大切です。							
<b>学習目的</b>	教育の基本的事項の理解を目的として講義します。学んだ概念や知識を理解し、教職の試験の合格だけでなく教職に就いた時に教師の資質として活用できる能力に高めることが望まれます。そのためには、講義を理解し、(双方向授業のため受講生に質問し、意見を求めるので)大いに発言し、知を自分のものとして内在化して定着させてください。							
<b>学習目標</b>	分かりやすい具体例を多く使用して説明し、抽象的概念が理解できるように講義します。高校までとは違い新しく学ぶ知識や概念が多くあります。学んだことを何度も復習し<体系的に><完全に理解して>ください。これが講義の学習目標ですが、さらに、教員採用試験の問題集を解いてみたり、実際に起きている(メディアで取り上げられる)教育事象を分析・考察して、教員としての資質を自ら向上させていくことが大切です。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容					
第1回	人間存在と教育		人間と動物の違い、変化し発展する存在としての人間、文化的・社会的存在と教育					
第2回	学びと教え		教えの原初的形態と伝承、教えの発達と教育、言語・記号の使用と教育、共同・協働行為と教育					
第3回	発達と教育		教育による可能性の拡大、経験による学びと科学的学び、知の受け身者から知の構成員へ、自己実現志向とピークエクスペリエンス(フロー)					
第4回	学校の成立		成立の社会的条件、形態・教授・教材・学習内容の変遷、現代の学校教育の意義と価値、養成される能力					
第5回	学校教育の特徴Ⅰ		系統主義教育(系譜と特徴、養成される能力、長所と欠点)					
第6回	学校教育の特徴Ⅱ		学習者中心主義教育(系譜と特徴、養成される能力、長所と欠点)、共同参画型教育(正統的周辺参加論 系譜と特徴、養成される能力、長所と欠点)					
第7回	日本教育史Ⅰ		古代から江戸時代までの教育、戦前の教育(目的、制度、教授の特徴、就学率の変化等、問題点等)					
第8回	日本教育史Ⅱ		戦後の教育(目的、制度、学習指導要領とその変遷、教授の変遷、就学率・進学率の変化、問題点等)					
第9回	学校教育と法		憲法、教育基本法、学校教育法、免許法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律					
第10回	教育課程		意義と目的、教育計画との関係性、学習指導要領と学校における教育課程の編成、スコープとシーケンス					
第11回	教授と学習		能力観、発達の最近接領域理論、肯定的相互関係、自己学習能力の養成、新たなリテラシー					
第12回	生徒指導と進路指導		生徒指導の提要、生徒理解と関係づくり授業における生徒指導等、問題行動への対応とケアの実際(現代の問題行動の特徴)、キャリア教育の必要性、自己選択・決定の意義					
第13回	学校教育の抱える病理		学校化社会、体罰、教科指導主義の陥穽、いじめ、授業忌避、不登校、自傷、オーバードーズ、親による子どもの世界づくりの先取り、フリーター・ニート					
第14回	新しい教育		アクティブ・ラーニング、P/P学習、共同探求学習、自己調整学習、生涯学習					
第15回	社会の変化と教育展望		消費・情報化社会におけるリテラシー、創造力、グローバル・コミュニケーション能力、批判的思考能力等の養成、格差社会とトラッキング、知の多様性と増大的知能観					
<b>教科書</b>	やさしい教育原理 田嶋一他 有斐閣							
<b>参考書</b>	①教育の原理 学文社、②人はいかに学ぶか 中公新書、③子どもの逸脱・非行 学文社							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験 80%、小テスト・レポート・授業中の意見 20%で評価する。							
<b>履修のポイント</b>	教職の基幹科目である。復習を繰り返し、学んだ概念で教育事象を考え深い見識を身につけることが大切である。							
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	法学		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	保健医療に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。一方で、国際化・情報化の進展とともに、紛争の解決が訴訟へともちこまれることが多くなってきており、保健医療分野においても、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的ことがらについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につける。							
学習目的	社会人として必要な法知識を身につける。また、医療者として不可欠な法知識・法感覚を身につける。							
学習目標	法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。また、日常生活に関わりのある法令を理解する。さらに、医療者として理解しておく必要のある具体的法令のうちのいくつかを読んで、理解できるようにする。							
授業計画								
回	主題		授業内容				備考	
第1回	オリエンテーション 法と社会		私たちの社会に存在するルールの中で、法とは何を指すのかについて学習し、その意義について理解する。					
第2回	法令の種類		法令には、どのような種類があるのか、またどのような効力があるのかについて学習する。また、法令で規定する分野・範囲について、理解する。					
第3回	法令の基本形式・構造(1)		法令は、一定の形式で構成されているが、その基本的な構造について学習する。法令を構成している要素がそれぞれどのような働きをしているのかについて、理解する。					
第4回	法令の基本形式・構造(2)		法令はある一定のルールに従ってその内容が構成されているが、そのルールを学習する。また、その法令の改正の仕方について、具体的なやり方について理解する。 ★確認テスト1「法とは何か、法令の基本構造」					
第5回	法令の読み方(1)		医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。 ☆レポート1「自分が知りたいと思った法令もしくは、その条文の一部を取り上げ、概要を記述する」					
第6回	法令の読み方(2)		規律する必要のある分野について、法律・省令等のいくつかの種類が一体的に規定している。そうした法令相互間の関係を具体的な法令を利用して、理解する。					
第7回	法令の読み方(3)		法令は、その種類によってはかなり頻りに改正されるものがある。そうした改正法について、医療保健に関する法令の具体例を使って理解する。					
第8回	消費生活と法(1)		財産的生活関係の中でも、特に消費者として日常的に関わる法について学習する。具体的に、「売買」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。 ★確認テスト2「法令の読み方」					
第9回	消費生活と法(2)		財産的生活関係の中でも、特に消費者として日常的に関わる法について学習する。具体的に、「契約」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。					
第10回	家族関係と法(1)		家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する。 ☆レポート2「法に関わるニュース・法的事項について」					
第11回	家族関係と法(2)		家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。 ★確認テスト3「民事法」					
第12回	雇用関係と法(1)		労働者の権利を中心に学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、男女雇用機会均等法などの諸法令について、理解する。					
第13回	雇用関係と法(2)		労働者の受け取る給与・報酬の法的側面について、最低賃金法などの労働条件に関する法律と関連させながら、学習する。					
第14回	雇用関係と法(3)		労働者の負担する税・社会保険料について、その概要を学習し、負担者の立場からの社会保障制度を学習する。					
第15回	全体のまとめ		・現代社会における法の意義とその課題 ★確認テスト4「全体のまとめ」 ☆レポート3「医療保健に関わる法的問題について」					
教科書	使用しない							
参考書	『ポケット六法』江頭憲治郎・小早川光郎・他 編 (有斐閣)							
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点 (授業への参加度・学習態度等) [15%]、レポート [40%]、確認テスト [45%] を総合して評価。							
履修のポイント	具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることがらに関する授業なので、よく理解しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時 (授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成25年度 シラバス

科目名	日本国憲法		担当者	松原直樹		学科	看護学科 栄養学科		開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位		学年	1学年		曜日	
	教職科目	(必修)		(時間)	(30時間)		時限			
授業の概要	<p>昨年の総選挙後の政権交代後、経済状況は上向きつつあると言われている。しかし、国における課題は山積しており、消費税増税、原発の可否を含むエネルギー対策、社会保障と税の一体改革等については、国民全体で考えるべき問題であり、最終的には国民に判断が迫られる問題である。現在、国民は政治が自分たちの生活に直結していることを実感しつつある。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、学習していく。</p>									
学習目的	<p>社会人として必要な憲法の知識を身につける。また、教職課程履修者については、教員として必要な最低限の憲法に関する知識、人権感覚を身につける。</p>									
学習目標	<p>憲法の基本的構造を理解する。憲法とわたしたちの日常生活との関係を理解する。どのような基本的人権がどのような目的でどのように保障されているかを学習する。現在の日本の統治構造について学習し、人権保障との関係を理解する。</p>									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回	日本国憲法とは		現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。							
第2回	日本国憲法はどのようにつくられたか		日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からGHQによる憲法案の提示、国会での審議等について、VTRに沿って学習する。							
第3回	人権保障とは		基本的人権の享有主体について学習する。特に、外国人・子どもの人権について、人権保障はどのようになされるのか、また法人は人権主体となり得るのかについて、学習する。							
第4回	法の下の平等		憲法が保障している法の下での平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。 ★確認テスト1「日本国憲法の成立と基本原理」 ☆レポート1「憲法に関するニュースについて」提出							
第5回	信教の自由		信教の自由はなぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。さらに、信教の自由に関する問題について、判例を素材として、学習する。その制度的に保障する「政教分離」について学習した後、それに関する判例を学習する。							
第6回	表現の自由		表現の自由について、その意義と内容について、学習する。そして、表現の自由において認められるべき具体的内容とその限界について、判例に沿って学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。							
第7回	生存権		社会権と区分される人権について学習した後、社会権に区分される生存権について、その意義と法的内容を知る。また、憲法26条の規定と「医療・社会保障・公衆衛生」に対する施策の関係を考える。							
第8回	教育と人権		教育を受ける権利とその内容について学習し、教育基本法との関係について理解する。さらに、現代の日本の教育制度の概要を学習し、また教育を受ける権利に関する判例を検討する。 ★確認テスト2「基本的人権」							
第9回	犯罪と人権		憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。							
第10回	象徴天皇制 選挙制度		憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。日本における国政・地方の選挙制度の概要と現状について学習する。 ☆レポート2「基本的人権に関する現代における問題について」							
第11回	国会のしくみ		国会のさまざまな権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。							
第12回	内閣と行政活動		内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ★確認テスト3「統治機構」							
第13回	裁判のしくみ		裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、VTRに沿って学習する。							
第14回	平和主義と防衛 憲法改正		平和主義の意義について学習した上で、日本の防衛政策の現状について、自衛隊、日米安全保障条約との関係を理解する。さらに、憲法改正の手段、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。							
第15回	全体のまとめ		全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について、検討する。 ★確認テスト4「全体のまとめ」 ☆レポート3「日本の統治機構の問題点について」提出							
教科書	『目で見える憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著 (有斐閣)									
参考書	『ポケット六法』菅野和男・江頭憲治郎・他 編 (有斐閣)									
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点 (授業への参加度・学習態度等) [15%]、レポート [30%]、確認テスト [55%] を総合して評価。									
履修のポイント	教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。									
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時 (授業時間以外)、9号館3階第9研究室									

平成25年度 シラバス

科目名	家族関係論		担当者	篠原貴子	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。							
学習目的	家族の概念や歴史に関して学び、近代以降の展開を捉える。							
学習目標	家族のあり方に関して、新たな視点と問題意識をもつことを目的とする。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	イントロダクション	家族への着目						
第2回	家族の歴史	近代社会と家族						
第3回	家族研究の展開	家族研究の主題と方法						
第4回	生命の誕生と家族	子どもの誕生と家族の役割						
第5回	戦前日本の家族Ⅰ	近代国家における家族						
第6回	戦後日本の家族Ⅱ	大衆化と女性の社会進出						
第7回	女性の役割	女性のライフコース						
第8回	家族イメージ	メディアにおける家族・女性像						
第9回	結婚観	恋愛結婚の誕生、未婚化・晩婚化						
第10回	家族の変容	セクシャリティの問題						
第11回	現代の家族Ⅰ	家族が抱える子の問題(不登校、ひきこもり、児童虐待など)						
第12回	現代の家族Ⅱ	夫婦関係の問題						
第13回	家族と制度	育児支援の政策と展開						
第14回	家族と地域	孤立する家族						
第15回	まとめ	家族の未来						
教科書	なし(随時配布)							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	スポーツ科学 I (レクリエーションとしてのスポーツ)		担当者	高見 達也	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	1年	曜日	
	教職に関する科目	必修					時限	
授業の概要	身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。							
学習目的	自己身体運動バランスの理解と分析							
学習目標								
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、メディカルチェック 体力と身体機能					運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。	
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ						
第3回	コミュニケーション・ワーク	①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレーキング						
第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)						
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)						
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)						
第7回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム①)						
第8回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム②)						
第9回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム③)						
第10回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム④)						
第11回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム⑤)						
第12回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム⑥)						
第13回	屋内レクリエーション スポーツ	レクリエーションスポーツの実践						
第14回	レクリエーション	指導方法、レクリエーションプログラム作成						
第15回	レクリエーション	プログラム発表・実践						
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業の取り組み、課題等で総合評価する							
履修の ポイント								
オフィス ・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	スポーツ科学Ⅱ (トレーニングの方法)		担当者	高見 達也	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	2年	曜日	
	教職に関する科目	必修					時限	
授業の概要	運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高めていく。更に、スポーツ活動を通じて心身を鍛え、スポーツコミュニケーションの追及、スポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大、スポーツ文化の理解を深める。							
学習目的	自己身体運動バランスの理解と分析							
学習目標								
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、メディカルチェック 体力と身体機能					運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。	
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施						
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表						
第4回	運動処方 トレーニング方法	運動能力測定結果に基づき、運動の種類・強さ・持続時間・頻度を示し、運動時の注意点を明確にする。						
第5回	球技Ⅰ	バスケットボールの実践(基礎練習)						
第6回	球技Ⅰ	バスケットボールの実践(基礎練習・ゲーム①)						
第7回	球技Ⅰ	バスケットボールの実践(ゲーム②)						
第8回	球技Ⅰ	バスケットボールの実践(ゲーム③)						
第9回	球技Ⅰ	バスケットボールの実践(ゲーム④)						
第10回	球技Ⅱ	バドミントンの実践(基礎練習・ゲーム①)						
第11回	球技Ⅱ	バドミントンの実践(ゲーム②)						
第12回	球技Ⅱ	バドミントンの実践(ゲーム③)						
第13回	球技Ⅱ	バドミントンの実践(ゲーム④)						
第14回	球技Ⅱ	バドミントンの実践(ゲーム⑤)						
第15回	有酸素トレーニングの実践	上肢・下肢のトレーニング(エアロビクス、サーキットトレーニング)						
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業の取り組み、ゲーム内容で総合評価する							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	人間発達学		<b>担当者</b>	齊藤敦子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門基礎科目	選択	<b>単位</b>	2単位	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(30時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	人間の誕生から人生を終えるまでの身体的・心理社会的、及び知性や倫理道德観の発達過程を学ぶ。また各成長発達段階の発達課題とは何かを理解する。							
<b>学習目的</b>	1. 発達領域（身体的・論理的・心理社会的・倫理道德的）において、それぞれの発達課題を学び実際との関連性を理解する。 2. 人間は生涯を通して成長をしていることから、「よりよく生きるとは」について理解を深める。							
<b>学習目標</b>	1. 発達の原則に基づいた人間の成長発達過程を学習する。 2. 身体的・思考（知性）・心理社会的・倫理道德的な領域におけるそれぞれの発達課題について学ぶ。 3. 各領域の成長発達の関連性があることを学習し、個人が抱えるさまざまな背景に基づいて成長発達過程を理解する。 4. 生涯を通じて、「生きていくこと」の意義を考える。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	人間の成長発達概念	発達の原則・発達課題について						
第2回	身体的な成長発達(1)	胎児期から学童期						
第3回	身体的な成長発達(2)	思春期から成人期						
第4回	身体的な成長発達(3)	高齢期、身体的な成長発達の課題学習					レポート(1)	
第5回	思考の成長発達(1)	「思考の発達とは」、ピアジェの発達段階（感覚～運動期）						
第6回	思考の成長発達(2)	ピアジェの発達段階（前操作期・具体的操作期）						
第7回	思考の成長発達(3)	ピアジェの発達段階（形式的操作期）						
第8回	身体的・知的発達の関連性	身体的な成長発達が及ぼす思考の発達への影響					小テスト(1)	
第9回	心理社会的な成長発達(1)	「心理社会的な発達とは」、エリクソンの発達段階（0歳～4歳）						
第10回	心理社会的な成長発達(2)	エリクソンの発達段階（5歳～青年期）						
第11回	心理社会的な成長発達(3)	エリクソンの発達段階（成人期・高齢期）					レポート(2)	
第12回	倫理道德観の成長発達(1)	「倫理道德観の発達とは」、コールバーグの発達段階（前慣習期）						
第13回	倫理道德観の成長発達(2)	コールバーグの発達段階（慣習期・後慣習期）						
第14回	生涯発達について	誕生から「老い」や「死」に至るまでの生涯にわたる発達について						
第15回	高齢期からの発達課題について	高齢期の発達課題・問題点、「より良く生きるとは」について考える					小テスト(2)	
<b>教科書</b>	資料や課題は配付する。							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 レポート(1)・(2)各10点、小テスト(1)・(2) 各40点							
<b>履修のポイント</b>	自分自身の成長過程との関連性を考えながら取り組んでもらいたい。							
<b>オフィス・アワー</b>	月曜日・火曜日・金曜日（講義及び会議の時間を除く）							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	物理学		<b>担当者</b>	栴沢龍次郎	<b>学科</b>	看護・栄養学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位 (時間)</b>	2単位 (30時間)	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
							<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数的処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していなくても、十分理解できる内容と構成になっています。(教科書の内容をベースにして、物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする)							
<b>学習目的</b>	看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮していく							
<b>学習目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理学の基礎「原理・原則」を理解する</li> <li>・看護・栄養分野への物理学の応用を理解する</li> <li>・基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする</li> </ul>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>						<b>備 考</b>
第1回	物理学と人体の関わり	・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器						
第2回	人体の力学	・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学						
第3回	流体と人体①(静止流体)	・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面張力・陰圧 ・肺胞と表面張力						
第4回	流体と人体②(運動流体)	・心臓と血液の流れ・血圧の変化・血圧測定						
第5回	流体と人体③(流体と医療)	・気体を流す場合 ・液体を流す場合(点滴装置の原理)						
第6回	熱と体温 ①(熱と温度)	・温度と温度計・熱と比熱・融解と蒸発・熱と仕事(エネルギー)						
第7回	熱と体温 ②(体温調節)	・体温と温度調節・体内で発生する熱・身体からの放熱 ・生理的体温調節機構・物理的放熱機構						
第8回	熱と体温 ③(体温測定)	・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィー						
第9回	音と光と人体①(音波)	・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用						
第10回	音と光と人体②(光波)	・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用						
第11回	電気と磁気の世界①(基礎知識)	・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱						
第12回	電気と磁気の世界②(生体と電気)	・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器						
第13回	原子と放射線①(基礎知識)	・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態 ・放射線と性質						
第14回	②(医学における放射線)	・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護						
第15回	③(医療への応用機器)	・医療における放射線の応用 ・X線CT ・MRI装置 ・ポジトロンCT装置						
<b>教科書</b>	医療系のための物理(佐藤幸一・藤城敏幸 著) 東京教学社							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上(筆記試験80% 平常点20%)							
<b>履修のポイント</b>	物理学は系統的学問なので、出席を常にし物理学的な思考力を高め実用分野で応用できるようにする							
<b>オフィス・アワー</b>	月曜日(13:00~17:00):4号館2F(第3研究室)							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	生物学		<b>担当者</b>	荒井 勝己	<b>学科</b>	看護学科・栄養学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位 (時間)</b>	2単位 (30時間)	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
	(教養科目)					<b>時限</b>		
<b>授業の概要</b>	看護師・管理栄養士になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。							
<b>学習目的</b>	看護師・管理栄養士として必要な生物学の基礎の習得する。							
<b>学習目標</b>	生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて学ぶ。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につける。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	生物学の基本	進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など						
第2回	細胞のプロフィール	細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など						
第3回	何が細胞の形や機能を決定しているのか	形質を決めているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど						
第4回	細胞が生きて活動していくために	ATPの産生、代謝経路のネットワークなど						
第5回	タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	タンパク質のさまざまな機能						
第6回	多細胞生物への道Ⅰ	細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど						
第7回	多細胞生物への道Ⅱ	DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など						
第8回	多細胞生物への道Ⅲ	減数分裂、生殖細胞の形成、受精など						
第9回	個体を守る免疫システム	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫機能の制御など						
第10回	生きること、死ぬこと	細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子の関係など						
第11回	個体としてのまとめ	内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調整、動物の行動など						
第12回	生物の進化と多様性	進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るためになど						
第13回	遺伝とはⅠ	遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など						
第14回	遺伝とはⅡ	さまざまな遺伝						
第15回	遺伝とはⅢ	性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など						
<b>教科書</b>	『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第2版 和田 勝著（羊土社） ※单元毎にプリントを配布							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験 100%							
<b>履修のポイント</b>	教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加することが望ましい。							
<b>オフィス・アワー</b>	授業内容等についての質問については、授業終了後、または11号館3F研究室6で随時受け付ける。							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	化学		<b>担当者</b>	小林	<b>学科</b>	看護	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	学部共通科目	選択	<b>単位 (時間)</b>	2 30時間	<b>学年</b>	1	<b>曜日</b>	
							<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	生体反応を理解するために必要な化学を学ぶ。パーセント濃度やモル濃度、原子の構造と化学結合、化学反応と化学平衡、溶液の化学、酸化と還元、有機化合物など看護師、管理栄養士の専門科目で必要とされる化学の基礎について学ぶ。							
<b>学習目的</b>	生体反応と結びつく化学を理解する。化学構造式をみて、物質の性質がわかるようにする。							
<b>学習目標</b>	1、パーセント濃度、モル濃度が計算できる。 2、SI 単位の理解 3、酸、塩基、酸化、還元、pH を理解する。 4、化学構造式を見て物質の性質がわかるようにする。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	実力テスト/化学で使う数字のルール	これまでの基礎学力の試験・指数・有効数字						
第2回	化学の世界	原子の性質と周期						
第3回	原子の構造	原子の電子配置、規則、荷電子						
第4回	化学結合 1	イオン結合、共有結合						
第5回	化学結合 2	共有結合、金属結合、分子間力、水素結合						
第6回	原子量と物質量	原子量、分子量、式量、物質量						
第7回	濃度計算	SI単位、単位の変換 濃度計算						
第8回	化学反応の量的関係	化学反応式						
第9回	酸と塩基	酸・塩基、pH						
第10回	酸化と還元	酸化・還元の定義						
第11回	化学平衡と溶液の性質	化学平衡、電離平衡、溶液の性質						
第12回	有機化合物 1	炭化水素						
第13回	有機化合物 2	脂肪族化合物、芳香族化合物						
第14回	有機化合物 3	糖質、脂質、アミノ酸、核酸						
第15回	総合演習	複数の項目を関連付け、実力を確認する。					電卓	
<b>教科書</b>	まるわかり！基礎化学 インプレス化学基礎ノート							
<b>参考書</b>	化学総合資料							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上		時間内のテスト・レポートにより評価					
<b>履修のポイント</b>	濃度計算、化学構造を理解し、生化学・栄養学などの専門科目が理解できるようにする。理解度にあわせ、シラバスを変更する。授業でおこなった範囲を問題集を使って必ず復習すること。							
<b>オフィス・アワー</b>	授業内で連絡							

# 平成25年度 シラバス

科目名	人間工学		担当者	浅川康吉、関口学、村田紘志	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	人間の運動機能や動作特性について理解を深めるとともに、障害者や高齢者にとっての使いやすさの観点から祉用具の活用や住環境の整備の方法を学ぶ。							
学習目的	日常生活動作の特性および福祉機器、住環境に関して看護・介護分野などで役立つ実践的知識を習得する。							
学習目標	看護・介護分野における人間工学の活用について理解を深める。 適切な福祉機器を選択したり、住環境を整備するための基礎知識を得る。 患者や障害者の生活の利便性、安全性、快適性を向上させるための人間工学の活用について考える。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	姿勢の観察	重心や姿勢について学ぶ					浅川	
第2回	姿勢の調整	姿勢の変化やバランス能力について学ぶ					浅川	
第3回	関節可動域	関節の構造と可動域について学ぶ					関口	
第4回	日常生活動作と関節可動域	日常生活動作に必要な関節可動域について学ぶ					関口	
第5回	筋力	筋肉の種類と筋力評価について学ぶ					関口	
第6回	日常生活動作と筋力	日常生活に必要な筋力について学ぶ					関口	
第7回	歩行	二足歩行の動作分析について学ぶ					村田	
第8回	歩行障害	各種疾患と関連付けて歩行障害の動作分析について学ぶ					村田	
第9回	歩行補助具	杖の種類と杖歩行のパターン、各種移動支援機器について学ぶ					村田	
第10回	車いす	車いすの基本構造と駆動方法について学ぶ					村田	
第11回	住環境整備	障害者・高齢者の自立支援としての住環境整備について学ぶ。					浅川	
第12回	安全な住環境	家庭における不慮の事故を予防するための住環境整備について学ぶ。					浅川	
第13回	フィールドワーク	障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建造物、環境を見直す（グループワーク）。					浅川	
第14回	フィールドワーク（続き）	障害者、高齢者にとってより便利で安全な住環境について考える（グループワーク）。					浅川	
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめ。					浅川	
教科書	なし（授業時に資料を配布する。）							
参考書	なし（授業時に適宜紹介する。）							
成績評価	単位認定 60 点以上							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	実践英会話		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 30時間	学年	2年	曜日	
	教職に関する科目	必修					時限	
授業の概要	英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。 授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。							
学習目的	Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture. 外国の文化を学びながら、英のlisteningや speaking能力を向上すること。							
学習目標	1. The students must be able to comprehend and respond to various oral directions and questions. 様々な口頭の指示や質問に対応できるようにする。 2. The students will learn how to interact in everyday situations using English. 日常生活で英語を使用して対話ができるようにする。							
授業計画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション Basic English Review		授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習 : Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.					
第2回	The Rules Scene		Asking permission and learning the rules					
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1		Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos					
第4回	The Polite Request Scene & Idioms		Making polite requests and offers Commonly used Idioms					
第5回	Putting Things Away Scene		Asking about location and where things go					
第6回	The Location Scene & Idioms		Asking about location and where things go Commonly used Idioms					
第7回	The Shopping Scene		Shopping and asking about preferences					
第8回	The Directions Scene		Giving directions about how to get somewhere					
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2		Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods					
第10回	The Complaint Scene		Making and responding to complaints					
第11回	The Illness Scene		Describing a medical problem and asking advice					
第12回	Practical English & Culture Talk 3		Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs					
第13回	The "How To" Scene		Asking for instructions and explaining how to do something					
第14回	The Getting Things Done Scene		Getting things done that you do not do yourself					
第15回	Test Role Playing		Evaluation Test Pairwork: Role Playing					
教科書	Performance -Conversation Scenes from Everyday Life David Harrington and Charles LeBeau							
参考書	担当教師の教育ウェブサイト イギリスのBBC: <a href="http://www.bbc.co.uk/">http://www.bbc.co.uk/</a>							
成績評価	単位認定	60	点以上	class performance (ロールプレイ) & assignments (課題) = 60%、テスト=40% *定期試験を実施しない。 **再試験を実施しない。				
履修のポイント	①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。 ②Practice makes Perfect. 習うより慣れる。							
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室 : 9号館 3F, 第12研究室 (情報環境研究室)							

平成25年度 シラバス

科目名	中国語		担当者	佐々木百合	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	30時間			時限	
授業の概要	中国語を初めて学習する者を対象にした授業です。教科書に沿って中国語の発音の基礎となる声調とピンインの発音練習から行います。また、中国語の基礎的な単語や慣用句、文法を学び、日常会話までを目指します。そして、隣国中国の文化が古くから日本文化に大きな影響を与えてきたことの理解をいっそう深めることです。							
学習目的	将来様々な職業に従事し、一般社会において中国人と接した時、中国語で積極的に交流ができること。							
学習目標	中国語の正しい発音と簡単なあいさつから日常会話までの読む・聴く・話す・書くを総合的にバランスよく習得する。基礎的な単語を覚え、基礎的な文法を理解することで、簡単な中国語の表現ができることを目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	発音1		声調・単母音・発音練習					
第2回	発音2		子音・複合母音・発音練習					
第3回	発音3		ピンインの組み合わせ・発音のまとめ					
第4回	第1課 挨拶と自己紹介		人称代名詞・「是」の文					
第5回	第1課 挨拶と自己紹介		単語の発音練習・会話文の解説・練習問題					
第6回	第2課 疑問文		指示代名詞1・疑問詞疑問文・「的」の用法・副詞「也」の用法					
第7回	第2課 疑問文		単語の発音練習・会話文の解説・練習問題					
第8回	第3課 動詞の文		動詞の文・所有を表す「有」・省略疑問の「呢」					
第9回	第3課 動詞の文		単語の発音練習・会話文の解説・練習問題					
第10回	第4課 形容詞の文		量詞・指示代名詞2・形容詞の文・「几」と「多少」					
第11回	第4課 形容詞の文		単語の発音練習・会話文の解説・練習問題					
第12回	第5課 数のいろいろ		数字・日付時刻を表す語・動作の時点を言う表現					
第13回	第5課 数のいろいろ		単語の発音練習・会話文の解説・練習問題					
第14回	総復習		単語と文法のまとめ					
第15回	試験範囲の問題		解説と総合練習					
教科書	<最新2訂版>中国語はじめての一步 尹景春・竹島毅 著 白水社							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中の問答に20%、期末試験を80%として、合計60%以上を合格とします。							
履修のポイント	中国語を母国語とする学生の履修は認めません。授業中は中国の様々なことについてたくさん質問して下さい。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	スペイン語(選択)		担当者	関口伸治	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1年	曜日	
			(時間)	30時間			時限	
授業の概要	1. 発音、アクセント、単語の読み方を学ぶ。 2. 動詞の現在形までの基本文法を学び練習問題をする。 3. 挨拶、自己紹介など基本会話の練習 4. 看護科、栄養科別に現場で使える会話表現を覚える。							
学習目的	1. スペイン語の初級を学び、簡単な会話ができるようにする。 2. 職場で使えるような表現を学ぶ。							
学習目標	1. 発音、アクセント、文の読み方を学ぶ。 2. 初級文法の概要を知る。 3. 基本会話が言える。専門別の会話例を覚える。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	スペイン語の読み方		スペイン語の特色、アルファベット・発音・アクセント				提出物1	発音
第2回	名詞の性と数		名詞の性と数、定冠詞・不定冠詞、基本会話の読み				提出物2	性と数
第3回	形容詞を使い名詞句を作る		性質形容詞・所有形容詞・de などの語彙を使い名詞句を作る。				提出物3	修飾
第4回	SER動詞・ESTAR動詞		人称代名詞・SER動詞の人称変化、ESTARの人称変化・HAY				提出物4	人称変化
第5回	規則動詞		AR, ER, IR動詞の人称変化。簡単な文を作る。				提出物5	規則動詞
第6回	基本会話練習		今までの提出物をチェックし、基本会話練習をする。				提出物6	基本語彙
第7回	不規則動詞・強変化		tenerの変化、状態の表現、医療会話の読み方				提出物7	不規則動詞
第8回	語順が特殊な動詞		好き嫌いの表現、栄養指導の会話の読み方				提出物8	プロロール
第9回	専門分野会話練習		医療会話、栄養指導会話の練習。				提出物9	専門語彙
第10回	不規則動詞・弱変化		querer, poderの変化、助動詞と不定詞の表現、したい、できる、なければならない				提出物10	不定詞と助動詞
第11回	再帰動詞		「1日の予定」から再帰動詞を学ぶ。				提出物11	1日の活動
第12回	品詞と文の構成		スペイン語の文のしくみを、副詞、前置詞から理解する。				提出物12	品詞と文
第13回	スペイン語のことわざ・ピロップス		ことわざや、ピロップス(口説き文句)から印象的な文を覚える。				提出物12	諺・ピロップス
第14回	分野別会話練習		今までの提出物をチェックし、分野別会話練習				提出物をまとめる	
第15回	分野別会話練習		今までの提出物をチェックし、分野別会話練習					
教科書	「La Practica hace maestro」(練習が巨匠を作る)自作教材							
参考書	自作教材							
成績評価	単位認定 60点以上、オーラル・テスト(50%)、課題提出(50%)							
履修のポイント	文法は練習で身につけましょう。会話はとにかく文を暗記しましょう。							
オフィス・アワー	講義の前後、食堂にいるときに質問やオーラルテストを受け付けます。Somos amigos (ソモス・アミゴス 我々は友達です)							

## 平成25年度 シラバス

科目名	ポルトガル語		担当者	伊勢島セリア	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認します。最後に簡単な会話の練習を行います。							
学習目的	ポルトガル語に親しみを感じて頂き、又、異文化に触れることを目的とします。							
学習目標	挨拶を初め、初歩の会話を身に付けて頂ければと思います。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	Como é seu nome? お名前は？	アルファベット、挨拶、基本構文						
第2回	Eu sou japonês. 私は日本人です。	動詞ser (～です)、否定文、疑問文、出身地を表す前置詞 de						
第3回	Meu pai é professor. 私の父親は教員です。	所有形容詞とその変化、職業の言い方						
第4回	Meu irmão é alto. 兄は背が高いです。	形容詞とその変化						
第5回	Quantos anos você tem? 何歳ですか？	動詞ter (～持っている)、名詞の性と数、数詞						
第6回	O Japão é mais frio do que o Brasil. 日本はブラジルより寒いです。	定冠詞、比較の表現						
第7回	Eu gosto de estudar. 私は勉強が好きです。	動詞gostar (～が好き)、動詞preferir (～の方を好む)						
第8回	Eu quero um computador preto. 黒いパソコンがほしいです。	不定冠詞、動詞querer (～がほしい)、色の表現						
第9回	O celular está na bolsa. 携帯電話は鞆の中にあります。	動詞estar (～にいる・～にある)、場所を表す前置詞 em						
第10回	Meu amigo vai à biblioteca. 友だちは図書館に行きます。	動詞ir (行く)、方向を表す前置詞 a、交通手段を表す前置詞 de						
第11回	A que horas você acorda? 何時に起きますか。	ar規則動詞の現在形、時間の表現						
第12回	Eu entendo português. 私はポルトガル語が分かります。	er規則動詞の現在形、同伴を表す前置詞 com						
第13回	Eu abro o e-mail todos os dias. 私は毎日eメールを開きます。	ir規則動詞の現在形、時を表す前置詞 em、曜日の表現						
第14回	Ele estudou português. 彼はポルトガル語を勉強しました	ar動詞・er動詞・ir動詞の完全過去形、月の表現						
第15回	Escreveremos uma carta. 私たちは手紙を書く予定です。	ar動詞・er動詞・ir動詞の未来形 小テスト						
教科書	プリントを配布します。							
参考書	ニューエクスプレス ブラジル ポルトガル語 (香川正子著 白水社)							
成績評価	単位認定 60 点以上 小テスト及び授業で行う練習問題で100%評価							
履修のポイント	プリントを基に予習と復習を行うことが望ましいです。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	統計学		担当者	石井 広二	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>統計学は、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、その集団の特徴や傾向を把握し、その結果を人間の活動や社会生活に広く役立てていくことを目的としている。そのために必要となる統計的手法について、記述統計から推測統計まで演習を通して学ぶ。また、授業ではLMSを活用する予定である。</p>							
学習目的	<p>統計学の概念を理解し、科学的に考え、分析するための基礎的な見方を身につける。</p>							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の概念を理解する</li> <li>・データを集計し、各種統計量を求められる</li> <li>・正規分布などの確率分布の特性を理解する</li> <li>・母平均の推定などが行える</li> <li>・統計的仮説検定の考え方を理解し、行える</li> </ul>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	統計学とは(1)	統計学の概念と数学知識の確認、電卓の使用方法					<u>電卓を持参すること</u>	
第2回	統計学とは(2)	母集団や標本などの基本概念、標本抽出、度数分布表の作り方課題						
第3回	標本分布の特性値(1)	中心的傾向の特性値(平均、中央値、最頻値など)の求め方						
第4回	標本分布の特性値(2)	変動の特性値(不偏分散、標準偏差など)の求め方課題						
第5回	確率分布	確認テスト①、確率分布の性質について						
第6回	正規分布	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて課題						
第7回	標本平均の分布	統計的有意性(有意水準、信頼係数など)と標本平均の分布、中心極限定理						
第8回	母平均の推定(1)	母平均の推定方法の基本的な考え方						
第9回	母平均の推定(2)	正規分布と母平均の推定課題						
第10回	母平均の推定(3)	t分布と母平均の推定課題						
第11回	演習	母平均の推定のまとめ、確認テスト②						
第12回	仮説検定(1)	統計的仮説検定の考え方(有意水準、有意確率、棄却域、仮説)						
第13回	仮説検定(2)	母平均に関する仮説検定の方法						
第14回	仮説検定(3)	母平均に関する仮説検定のまとめ課題						
第15回	演習	講義のまとめ、確認テスト③						
教科書	「はじめての統計学」鳥居泰彦(日本経済新聞社)							
参考書	「ナースのための統計学」高木廣文(医学書院)「完全独習統計学入門」小島寛之(ダイヤモンド社)「マンガでわかるナースの統計学」(オーム社)など							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業課題への取り組み40%、確認テスト60%							
履修のポイント	<p>数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定であるが、理解のため演習課題は必ず自分で解くこと。講義には電卓『平方根の機能がついたもの!』を持参すること。</p>							
オフィス・アワー	曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	情報処理基礎演習		担当者	HTC マチャコン	学科	看護	開講期	前期
区分	学部共通科目	必修	単位 (時間)	1単位 30時間	学年	1年	曜日	
							時限	
<b>授業の概要</b>	我々の生活や仕事の情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報によって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。							
<b>学習目的</b>	アプリケーションソフト (Office 2010 : Word, Excel, Powerpoint) やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。							
<b>学習目標</b>	①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。 ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。 ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作		WindowsOSの基礎知識、基本操作、オンライン資料の紹介 Eメール (フリーメール) のアカウントの設定					
第2回	Wordの活用 1		Wordの基本操作、基本編集、					
第3回	Wordの活用 2		文書作成、表と罫線、オブジェクトの処理					
第4回	Wordの活用 3		論文・レポートの書き方					
第5回	インターネットの利用		インターネットの概要、Webブラウザと検索、 本大学の図書館資料検索 (OPAC)、情報論理					
第6回	Wordの実技 PowerPointの活用 1		<b>実技テスト (Word)</b> プレゼンテーションの概要、スライドの作成					
第7回	PowerPointの活用 2		プレゼンテーションの表示効果					
第8回	Excelの活用1		表計算とは、表の作成、数式の入力と編集					
第9回	Excelの活用2		関数の使い方、グラフの作成					
第10回	Excelの活用3		データベース					
第11回	Excelの活用4		数学/三角関数、統計関数、論理関数					
第12回	Excelの活用5		集計と分析					
第13回	Excelの実技		<b>実技テスト (Excel)</b>					
第14回	コンピュータプログラミング HTML		HTMLの基本構成とタグ					
第15回	情報倫理		個人情報、情報セキュリティ					
<b>教科書</b>	Office2010で学ぶコンピュータリテラシー /Windows7対応 ISBN978-4-407-32242-2 小野目 如快 実教出版							
<b>参考書</b>	Windows7・Office2010による情報処理入門 ISBN978-4-407-32165-4 高橋 敏夫 実教出版							
<b>成績評価</b>	単位認定	60	点以上	演習問題への取り組み 40%、実技テスト 60% *定期試験を実施しない。 **再試験を実施しない。				
<b>履修のポイント</b>	①演習時間外での活用が必要である。 ②習うより慣れる。							
<b>オフィス・アワー</b>	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室：9号館3F, 第12研究室 (情報環境研究室)							

平成25年度 シラバス

科目名	情報処理応用演習		担当者	HTC マチャコン	学科	看護	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 30時間	学年	2年	曜日 時限	
授業の概要	「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。							
学習目的	看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。							
学習目標	①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。 ②音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。 ③画像編集ソフト GIMPや医用画像ソフト「Osiris」の簡単な操作ができる。							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	Excelの復習	Excelの基本操作の複数						
第2回	Excel応用(1)	アンケート調査, クロス集計表, ピボットテーブル						
第3回	Excel応用(2)	リスク比とオッズ比						
第4回	Excel応用(3)	2郡の差の検定 (対応のある場合)						
第5回	Excel応用(4)	3郡の差の検定 (対応のない場合)						
第6回	Excel応用(5)	分割表による検定						
第7回	Excel応用(6)	多群の差の検定						
第8回	Excel応用(7)	相関係数						
第9回	Excel応用(8)	回帰分析						
第10回	Excel応用(9)	実技テスト (Excel)						
第11回	マルチメディア情報 (1)	音声ファイルの編集・加工						
第12回	マルチメディア情報 (2)	動画ファイルの編集・加工						
第13回	コンピュータグラフィックス	画像ファイルの編集・加工						
第14回	医療情報(1)	DICOM形式医用画像						
第15回	医療情報(2)	バーコードによる患者管理						
教科書	実践 看護・医療系データ分析のための基本統計ハンドブック、ピラールプレス 第1版、ISBN978-4-86194-054-5 福森貢 堀内美由紀							
参考書	よくわかる医療・看護のための統計入門、東京図書 第2版、ISBN978-4489020513 石村 貞夫、桃井 保子、今福 恵子、劉 晨							
成績評価	演習問題への取り組み 50%、実技テスト 50% 単位認定 60 点以上 *定期試験を実施しない。 **再試験を実施しない。							
履修のポイント	①演習時間外での活用が必要である。 ②習うより慣れる。							
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室: 9号館3F, 第12研究室 (情報環境研究室)							

## 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	早期体験合同実習		<b>担当者</b>	小此木・中山・林・内田	<b>学科</b>	看護・栄養学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門基礎科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(45時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	学習初期の時期に対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。また、自己の専攻する専門職の役割について考えることで、今後の学習の動機づけとし、主体的に学ぶための方法を理解する。看護学科・栄養学科合同実習とすることで、自己理解とともに、専攻の異なる学生間で認識を共有し、チーム連携の重要性を知る機会とする。							
<b>学習目的</b>	対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。自己の専攻する専門職の役割について考え、今後の学習の動機づけとする。また、実習を通して学生間で認識を共有する。							
<b>学習目標</b>	1. 対象者の立場から、医療施設のサービスを観察する。 2. 医療施設のサービスを受ける対象者を観察し、その特徴を知る。 3. 看護師および管理栄養士の活動を観察し、その役割を知る。 4. 各専門職の役割を知り、その連携について考える。 5. 今後の学習上の課題を明らかにする。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	学内実習	オリエンテーション・事前課題						
第2回	学内実習	グループ別演習						
第3回	臨地実習	対象者の立場から医療施設のサービスを観察する						
第4回	臨地実習	看護師・管理栄養士の活動を知る						
第5回	臨地実習	各専門職の活動を知り、連携について考える						
第6回	学内実習	グループ別演習・実習のまとめ						
第7回								
第8回		* 詳細は早期体験合同実習要項参照						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>								
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照							
<b>履修のポイント</b>	事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください。							
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	人体の生化学		担当者	榮 昭博	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	生体を構成する成分・分子理解するために、糖、脂質、タンパク質についてその化学を学びさらに消化吸収・代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。							
学習目的	人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目的としている。							
学習目標	生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	生化学の概要		化学の基礎と生化学を概説する。また、国家試験における生化学の概要についても解説する					
第2回	糖質の構造と性質		糖の化学、単糖・少糖・多糖の種類、特にグルコースの構造を理解し、糖の化学的性質との関連をみる。					
第3回	脂質の構造と性質		脂質の分類と定義、脂肪、複合脂質、ステロイドについて学ぶ。					
第4回	脂質の構造と性質（2）		コレステロール・リポタンパク質について学ぶ。					
第5回	蛋白質の構造と性質		アミノ酸およびペプチドの構造と性質について学ぶ。					
第6回	核酸		塩基、ヌクレオシドとヌクレオチド、DNAとRNAの構造と機能について学ぶ。					
第7回	水とミネラル		水の機能と役割、ミネラルの機能について学ぶ。					
第8回	ビタミン（1）		脂溶性ビタミンを中心にその種類と生理作用について学ぶ。					
第9回	ビタミン（2）		主に水溶性ビタミンの種類と生理作用について学ぶ。					
第10回	ホルモンと生理活性物質Ⅰ		ホルモンの定義、ホルモンの種類、作用を学ぶ。					
第11回	ホルモンと生理活性物質Ⅱ		7回に続きホルモンを学び、サイトカインについても学ぶ。また、内分泌疾患の一部を学ぶ。					
第12回	糖代謝		グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）などについて学ぶ。					
第13回	脂質代謝		脂質の消化吸収、脂肪酸・脂質の生体内の動向および代謝について学ぶ。					
第14回	蛋白質代謝		蛋白質の消化吸収・アミノ酸の代謝について学ぶ。					
第15回	遺伝情報とその発現		遺伝子による複製・転写・翻訳および蛋白質合成について学ぶ。					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能[2] 生化学』医学書院							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 試験の素点に、レポート点(最大10点) を加点することがある。							
履修のポイント	化学の知識を必要とするので化学(特に有機化学)を復習しておくことが望ましい。							
オフィス・アワー	授業開講日の12:30~13:20に11号館3階第10研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	生命倫理		担当者	金山昭夫	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	水曜日
			(時間)	(30時間)			時限	2時限
授業の概要	医療における技術的な進歩は、これまでにない倫理上の問題を引き起こし、医療の現場は適切な対応を迫られる中で困難な問題＝ディレンマ直面している。これまで、応用倫理としての生命倫理・医療倫理は過去の倫理的な方法論をまさに「応用」することによって、なんらかの原理原則を打ち立てるべく努力してきた。しかし、現実のケースは遙かに複雑で、およそ模範的な倫理問題の解答を得ることは難しい。こうした現実をケーススタディを通して知ると共に、問題点を検討し、議論する中でそれぞれの倫理実践の概念（例えばインフォームドコンセント、QOL）の根幹を問い直すことでより深い理解を得ることを目的とする。							
学習目的	医療現場における倫理的な問題について議論を通して、多様な価値観を学ぶ。また、その実践的適応としてのケーススタディの方法論を身につける基礎を形成する。							
学習目標	医療現場における倫理的な問題について、ケーススタディを通して学ぶことで、実際の問題に直面した時により適切な対応ができるような、実践的な考え方やものの見方を養う。また、実際に自らが経験したケースを批判的に解釈し、そのケースからどのような倫理的な問題が生じたのか？そして、それに対する対応が適切であったか？というような、自らがケースを批判的に再構成することによって、他の医療者へと実践倫理の課題をフィードバックすることができるような基礎力を養う。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	生命倫理・医療倫理とは	生命・医療倫理とは何か、概略とオリエンテーション						
第2回	プライバシーと守秘義務	看護職に求められる守秘義務について考える						
第3回	インフォームドコンセント(1)	インフォームドコンセントとパターナリズムについて考える						
第4回	インフォームドコンセント(2)	インフォームドコンセントとパターナリズムについて考える						
第5回	真実告知(1)	がん告知のケースを通し、知る権利、知らされない権利を考える						
第6回	真実告知(2)	がん告知のケースを通し、知る権利、知らされない権利を考える						
第7回	治療情報の開示(1)	患者や家族の知る権利とパターナリズムについての考える。						
第8回	治療情報の開示(2)	患者や家族の知る権利とパターナリズムについての考える。						
第9回	看護倫理	患者の自立とアドボカシーについて、看護職の立場から考える						
第10回	治療拒否と自己決定権(1)	治療拒否と患者の自己決定権について考える						
第11回	治療拒否と自己決定権(2)	セルフコントロールと患者の自己決定権について考える						
第12回	安楽死と尊厳死(1)	患者のQOLと延命医療の問題について考察する。						
第13回	安楽死と尊厳死(2)	患者のQOLと延命医療の問題について考察する。						
第14回	看護におけるアドボカシー(1)	地域医療を取り上げてアドボカシーについて考える						
第15回	看護におけるアドボカシー(2)	地域医療を取り上げてアドボカシーについて考える						
教科書	服部健二、伊藤隆雄、井部俊子、『医療倫学のABC』（第2版）メジカルフレンド社、2012年							
参考書	関正勝、『生命倫理』、聖公会出版、1998年							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験（80%）、授業での発言参加状況（20%）で総合的に評価する。							
履修のポイント	ケーススタディでは、自らが積極的に問題を考察し、疑問点や意見を発言することが求められる。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	感染と防御		担当者	瀬野尾	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	木曜日
	(教職に関する科目)	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	1限
授業の概要	微生物としての細菌、真菌、原虫、ウイルスについて、その一般的性質と、各微生物によって引き起こされる代表的な感染症について講義する。また、感染防御の基礎となる免疫機構について概説するとともに感染予防のための滅菌、消毒、予防接種や、感染症治療のための化学療法剤等についても概説する							
学習目的	感染症をいかに防御するかは、患者にとっても、自分自身にとってもたいへん重要なことであり、そのための基礎知識を確実に習得する							
学習目標	1. 細菌、真菌、原虫、ウイルスとは何かその基本的性質を理解する 2. 感染症とは何か、いかにして発症するか、また代表的な感染症について理解する 3. 感染防御の基礎となる免疫機構についてその作用機構を理解する 4. 滅菌、消毒、予防接種、化学療法等の概念を理解する							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	微生物と人間	1. 微生物とは何か？ 2. 微生物の発見と歩み 3. 細菌の形態と内部構造						
第2回	細菌、真菌の性質	1. 細菌の増殖、遺伝、病原性 2. 真菌の形態と内部構造						
第3回	原虫、ウイルスの性質	1. 原虫の構造と特徴 2. ウイルスの特徴、分類、疾患						
第4回	感染症とは	1. 感染症の概念 2. 感染症のメカニズム 3. 感染予防						
第5回	感染症の予防、診断、治療	1. 免疫とは？ 2. 免疫細胞・組織 3. 細胞性免疫と液性免疫						
第6回	免疫Ⅰ	1. 抗体の構造と機能 2. 抗体産生 3. 補体						
第7回	免疫Ⅱ	1. 抗原・抗体反応 2. サイトカイン						
第8回	免疫Ⅲ	1. アレルギー 2. 自己免疫性疾患						
第9回	免疫Ⅳ	1. 組織適合性抗原 2. 移植免疫						
第10回	細菌感染症Ⅰ	グラム陽性菌						
第11回	細菌感染症Ⅱ	グラム陰性菌						
第12回	特殊細菌、真菌、原虫感染症	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫感染症						
第13回	ウイルス感染症	DNAウイルス						
第14回	ウイルス感染症	RNAウイルス						
第15回	ウイルス感染症	レトロウイルス、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス						
教科書	微生物学（医学芸術者）							
参考書	系統看護学講座⑥ 微生物学（医学書院）							
成績評価	単位認定 60 点以上 成績評価は期末試験のみで評価する。毎回の授業から出題する。追試験は行うが、再試験は行わない。							
履修のポイント	毎回出席することが重要です。毎回小テストを行います。							
オフィス・アワー	随時研究室にて対応します。							

平成25年度 シラバス

科目名	臨床検査		担当者	天谷初夫	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位 (時間)	1単位 30時間	学年	1学年	曜日 時限	
授業の概要	現在の医療における臨床検査は、診断・治療効果の判定等に不可欠なものとなっています。医療の現場で看護師として知っておくべき臨床検査の基礎知識について学習することを目的とする。							
学習目的								
学習目標	特に、生命に直接影響する項目について「その意義と注意すべき事項」について習得することを目的とする。							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	「臨床総論」 臨床検査の役割	臨床検査の役割・種類・評価について (検体検査・生体検査・単位 等)						
第2回	臨床検査の評価 (結果の信頼性について)	臨床検査の精度管理について。 (正確度・感度・特異度・施設間差・精度管理調査・基準値)						
第3回	臨床検査の流れと看護師の役割 (検査前管理について)	検査の流れと検体採取について (検査前の注意・準備・説明・採取方法・採取容器 等)						
第4回	臨床検査の流れと看護師の役割 (検体保存と事故防止)	採取検体の保管方法と感染事故防止について (材料別・検査項目別の保管と感染事故防止)						
第5回	「各論」 一般検査	尿検査・便検査の目的 (検査結果の意味と解釈)						
第6回	血液検査①	血液一般検査の概要について (採血時の注意点・抗凝固剤・検査項目について)						
第7回	血液検査②	血液一般検査の結果の解釈について (各血球成分・白血球分類・凝固因子について)						
第8回	臨床化学検査①	臨床化学検査項目の測定意義と解釈 (蛋白・血清酵素について)						
第9回	臨床化学検査②	臨床化学検査項目の測定意義と解釈 (糖代謝・脂質代謝・糖尿病・メタボについて)						
第10回	臨床化学検査③	臨床化学検査項目の測定意義と解釈 (肝機能検査・腎機能検査 他について)						
第11回	免疫血清検査・輸血検査	免疫血清検査項目の測定意義と解釈、輸血検査 (免疫項目と輸血に関する留意事項について)						
第12回	腫瘍マーカー・ホルモン検査	腫瘍マーカーとホルモン検査の目的と解釈 (項目別の注意事項と結果の解釈について)						
第13回	微生物検査	微生物検査の目的と諸注意 (検査内容・検体取り扱い型・結果の解釈について)						
第14回	病理検査・生理機能検査①	病理検査の意義と生理検査の基礎知識 (検体取り扱いの注意・生理検査で解ることについて)						
第15回	生理機能検査②・臨床検査総括	生理検査の実際と臨床検査のまとめ (心電図 他)						
教科書	系統看護学講座 別館6 (医学書院)							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 * 筆記試験							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	栄養学		担当者	澤田 樹美	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1年生	曜日		
	教職に関する科目	必修	(時間)	30時間			時限		
授業の概要	<p>本講座は、下記の内容から構成される。</p> <p>①栄養の基礎知識                  ②各国の食生活指針・食事バランスガイド                  ③食の課題（子供・成人・食環境）                  ④生活習慣病予防と栄養・食生活</p>								
学習目的	<p>看護師・保健師・養護教諭として現場で食生活支援ができる基礎知識を身につけることを目的とする。食生活支援をする際に、栄養学の学問が、食生活の学問にどのようにつながっていくかを、系統立てて学ぶ。また、食環境の課題についても国際的な視野を踏まえながら理解を深める。</p>								
学習目標	<p>次に示した内容について理解することを目標とした。</p> <p>①主な栄養素の基礎知識を復習する。                  ②食生活指針及び食生活支援のガイドラインについて学び活用できるようにする。                  ③子供・成人・社会環境の食の課題を学び、食育の取り組みを考える。                  ④生活習慣病予防と食生活との関係を理解する。</p>								
<b>授 業 計 画</b>									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	栄養・食生活概論	オリエンテーション/人と食物と環境のつながりから栄養・食生活を考える							
第2回	基礎栄養Ⅰ	栄養素の基礎知識(炭水化物・たんぱく質など)の復習							
第3回	基礎栄養Ⅱ	栄養素の基礎知識(脂質など)の復習							
第5回	食生活指針	海外および国内の食生活指針を理解する							
第6回	食事バランスガイド	食事バランスガイドの策定と内容を理解する							
第7回	食生活支援の教材	教材(食事バランスガイドなど)を活用できるスキルを身につける						課題	
第8回	食生活の課題Ⅰ(子供)	第2次健康日本21の概要を理解し、子供の食に関する課題を考察する						課題	
第9回	食生活の課題Ⅱ(子供)	第2次健康日本21の概要を理解し、社会環境の課題について考察する							
第10回	食育	食生態学の視点からみた食の課題と食育を理解する							
第11回	食の行動科学理論Ⅰ	個人の食行動と行動科学理論を学ぶ							
第12回	食の行動科学理論Ⅱ	ヘルスプロモーションと行動科学理論を学ぶ							
第13回	生活習慣病予防と食生活Ⅰ	栄養の基礎知識と生活習慣病予防の食生活を系統立てて理解する 食行動・食環境のエビデンスを収集する							
第14回	生活習慣病予防と食生活Ⅱ	栄養の基礎知識と生活習慣病予防の食生活を系統立てて理解する 食行動・食環境のエビデンスについて理解を深める						課題	
第15回	まとめ	総括							
教科書	やさしい栄養学 (女子栄養大学出版)・印刷物								
参考書	食事バランスガイド(第一出版)・食生活論(医歯薬出版)								
成績評価	単位認定 60 点以上 本試験 (80点), 提出物 (20点) の総合評価とする。授業態度も考慮します。遅刻厳禁・再試なし								
履修のポイント	前回の授業内容の確認小テストを行います。重要項目は必ず復習・自己学習してきてください。								
オフィス・アワー	11号館3階研究室18に掲示								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	食品学		<b>担当者</b>	荒井 勝己	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門基礎科目 (教職に関する科目)	選択 (必修)	<b>単位</b>	1単位 (15時間)	<b>学年</b>	2学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>			<b>時限</b>		
<b>授業の概要</b>	食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では看護学科の学生（養護教諭資格取得を目指している学生）にとって知っておく必要のある基礎的な知識や最新の食に関わるニュースをわかりやすく解説していく。							
<b>学習目的</b>	“食品”に関する基礎知識を理解・習得することを目的とする。							
<b>学習目標</b>	“食品とは何か”を理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する知識を習得する。食品の機能性や食品表示や規格、食品加工・貯蔵技術などについて理解する。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	食品の種類と分類	食品とは、食品の特性、食品の分類など						
第2回	食品の成分Ⅰ 水分・炭水化物	水分（食品中の水の状態、水分活性など） 炭水化物（単糖類、二糖類、多糖類、食物繊維など）						
第3回	食品の成分Ⅱ 脂質	脂質（脂肪酸、リン脂質、コレステロール、油脂の化学的性質など）						
第4回	食品の成分Ⅲ たんぱく質	たんぱく質（アミノ酸・たんぱく質の構造・種類・働きなど）						
第5回	食品の成分Ⅳ ビタミン・ミネラル	ビタミン（ビタミンの分類と働きについて） ミネラル（ミネラルの種類および生理作用について）						
第6回	食品の機能性	食品の機能、栄養強調表示と健康強調表示、保健機能食品、特別用途食品、「いわゆる健康食品」の概略						
第7回	食品の表示と規格	国内規格、国際規格、品質規格制度の歴史、期限表示、成分表示など						
第8回	食品加工と栄養	食品加工の意義・目的など						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	単元毎にプリントを配布します。							
<b>参考書</b>	『食べ物と健康 -食品の栄養成分と加工-』 国崎直道編著（同文書院）							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験 100%							
<b>履修のポイント</b>	最新の食に関するトピックスについても取り入れていくので、授業には積極的に参加することが望ましい。							
<b>オフィス・アワー</b>	授業内容等についての質問については、授業終了後、または11号館3F研究室6で随時受け付ける。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	臨床薬理学		担当者	影山晴秋	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	疾患の治療において薬は重要な位置を占めている。薬は疾患の原因を取り除くために使用されるので、疾患の原因を理解しながら、薬理作用と病気の原因について、基礎知識を習得する。							
学習目的	薬物治療を行うために、必要な臨床薬理学の基礎知識を習得する。							
学習目標	疾患に対する代表的な薬物の薬品名、その薬理作用および副作用等の理解と看護における注意点が理解できるようにする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	総論	医薬品の総論						
第2回	生活習慣病に使用する薬(1)	高血圧						
第3回	生活習慣病に使用する薬(2)	狭心症・不整脈・心不全						
第4回	生活習慣病に使用する薬(3)	脂質異常症・糖尿病						
第5回	がん・痛みに使用する薬	がん、疼痛コントロールに使う薬など						
第6回	感染症に使用する薬	細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、消毒薬など						
第7回	中枢神経系疾患で使用する薬	パーキンソン病治療薬、向精神薬など						
第8回		小テスト						
第9回	救命救急時に使用する薬	中毒時、麻酔時、ショック時に使う薬など						
第10回	アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬	気管支喘息、関節リウマチに使う薬など						
第11回	消化器系疾患に使用する薬(1)	消化性潰瘍治療薬						
第12回	消化器系疾患に使用する薬(2)	健胃消化薬、制吐薬、鎮吐薬						
第13回	消化器系疾患に使用する薬(3)	胃腸機能調整薬、肝胆膵臓疾患に使用する薬など						
第14回	その他の疾患に使用する薬(1)	代謝機能疾患、内分泌障害、腎機能障害に使う薬など						
第15回	その他の疾患に使用する薬(2)	代謝機能疾患、内分泌障害、腎機能障害に使う薬など						
教科書	ナーシング・グラフィカ「臨床薬理学」メディカ社							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 期末試験と小テストを総合して評価します。							
履修のポイント	難解なところやカタカナの薬品名が多いので、繰り返し復習をしましょう。							
オフィス・アワー	月曜日から木曜日：9:00-16:00 (11号館研究室10)							

平成25年度 シラバス

科目名	臨床心理学		担当者	齊藤敦子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	医療分野において身体的・心理的な問題や疾患を抱える患者の心理状況を理論的かつ客観的に理解し、基本的なカウンセリング理論及びかわり方を学び心理的な援助が実践できるようにする。							
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな疾患に伴う患者の心理状態について理解を深め、どのような援助を必要としているかを考える。</li> <li>2. 効果的な援助をするために、カウンセリングの基本的な理論や方法を学習する。</li> <li>3. 援助を必要としている対象を客観的に理解するために、心理査定の種類や方法について理解する。</li> </ol>							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療分野における臨床心理学の位置づけを理解する。</li> <li>2. 患者の立場に立ってその人の考えや気持ちについて理解を深め、援助が実践できるように考察する。</li> <li>3. カウンセリングの理論や技法を理解し、効果的な援助が行えるように体験を通して学習する。</li> <li>4. 心理査定の種類や方法を理解し、患者の心理を客観的に評価する必要性を学ぶ。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	臨床心理学とは	臨床心理学の概念及び対象について						
第2回	身体的な健康障害と心理 (1)	体験学習 (1)					課題レポート (1)	
第3回	身体的な健康障害と心理 (2)	体験学習 (2)					課題レポート (2)	
第4回	心理的な健康の概念	パーソナリティの健と障害						
第5回	適応及び不適応とは	適応の意義、及び不適応のとらえ方						
第6回	心理アセスメント (1)	心理アセスメントの方法：質問紙法他						
第7回	心理アセスメント (2)	心理アセスメントの種類：性格検査他						
第8回	精神的な疾患の診断基準とは	精神疾の診断・統計マニュアルなど					小テスト (1)	
第9回	発達と心理的問題との関連 (1)	非行・家庭内暴力など						
第10回	発達と心理的問題との関連 (2)	拒食症・自殺など						
第11回	心理的な援助を必要とする症状	ストレス・抑うつ・不安症状						
第12回	カウンセリングとは	カウンセリングの定義・目的・およびカウンセリング過程について						
第13回	カウンセリングの基本的な姿勢	カウンセリングにおける心構え及び態度						
第14回	カウンセリング理論の重要性	クライアント中心療法他						
第15回	心理的援助の留意点	心理援助における倫理・自尊心及び尊厳					小テスト (2)	
教科書	資料を配付する。							
参考書	必要と思われる際に紹介する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート(1)・(2) 各10点、 小テスト(1)・小テスト(2) 各40点							
履修のポイント	臨床心理学で学ぶ内容は日常生活の中で誰もが体験する可能性がある。自分自身の事として真剣な姿勢で学んでもらいた							
オフィス・アワー	月曜日・火曜日・金曜日（講義及び会議の時間を除く）							

## 平成25年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進I		担当者	影山 晴秋 岡田 克之	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職に関する科目	必修	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	人間の健康を傷害する要因である主な疾患を系統的に取り上げ、それらの病因、病態、診断法、治療法、予後について学習する。ここでは環境機能制御系について学習する。							
学習目的	看護を行う上で、疾患の病態を理解することを目的とする。血液・リンパ、内分泌・代謝系疾患、免疫、皮膚疾患について理解する。							
学習目標	各系生理機能を理解する。 病態と臨床検査成績の関連を理解し、病態に応じた症状の変化を理解する。 頻度の高い疾患について基礎的な知識を得る。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	内分泌疾患(1)		下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患などの病態生理、診断、検査、治療			影山		
第2回	内分泌疾患(2)		下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患などの病態生理、診断、検査、治療			影山		
第3回	栄養・代謝疾患(1)		糖代謝・脂質代謝・尿酸代謝疾患などの病態生理、診断、検査、治療			影山		
第4回	栄養・代謝疾患(2)		糖代謝・脂質代謝・尿酸代謝疾患などの病態生理、診断、検査、治療			影山		
第5回	血液疾患(1)		赤血球系、白血球系の病態生理、診断、検査、治療			影山		
第6回	血液疾患(2)		白血球系、出血性疾患の病態生理、診断、検査、治療			影山		
第7回	皮膚疾患(1)		皮膚のしくみと働き、代表的な疾患の病態生理、診断、検査、治療			岡田		
第8回	皮膚疾患(2)		皮膚のしくみと働き、代表的な疾患の病態生理、診断、検査、治療			岡田		
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	系統看護学講座「病理学」・医学書院							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 期末試験を総合して評価する。							
履修のポイント	難解なところがあるかもしれませんが、繰り返し復習をしましょう。また解剖生理学が基礎となりますので、併せて勉強しましょう。							
オフィス・アワー	月曜日から木曜日：9:00-16:00 (11号館研究室10)							

# 平成25年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進II		担当者	影山晴秋	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	人間の健康を傷害する要因である主な疾患を系統的に取り上げ、それらの病因、病態、診断法、治療法、予後について学習する。ここでは代謝機能・臓器制御系について学習する。							
学習目的	呼吸器・循環器・消化器・腎泌尿器の代表的な疾患の病因、病態とその治療法について理解する。代表的な疾患を知ることによって、よりよい看護ケアを行うための基礎を学ぶ							
学習目標	病態と臨床検査成績の関連を理解し、病態に応じた症状の変化を理解する。頻度の高い疾患について基礎的な知識を得る。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	消化器疾患 (1)		食道と胃の疾患					
第2回	消化器疾患 (2)		小腸と大腸の疾患					
第3回	消化器疾患 (3)		肝・胆・膵の疾患					
第4回	呼吸器疾患 (1)		肺・気管の疾患					
第5回	呼吸器疾患 (2)		感染と腫瘍性疾患					
第6回	循環器疾患 (1)		心臓の疾患 (1)					
第7回	循環器疾患 (2)		心臓の疾患 (2)					
第8回	循環器疾患 (3)		血管の疾患					
第9回	腎・泌尿器疾患 (1)		腎障害 (1) /中間テスト					
第10回	腎・泌尿器疾患 (2)		腎障害 (2)					
第11回	腎・泌尿器疾患 (3)		尿路の疾患					
第12回	腎・泌尿器疾患 (4)		腫瘍性疾患					
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進①病理学・メヂカルフレンド社							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 中間テストと期末試験を総合して判定します。							
履修のポイント	難解なところがあるかもしれませんが、繰り返し復習をしましょう。解剖生理学が基礎となりますので、併せて勉強し							
オフィス・アワー	月曜日から木曜日：9:00-16:00 (11号館研究室10)							

平成25年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進Ⅲ		担当者	久松徹也	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	精神疾患の概論及び代表的疾患についての症状、病因、治療論の説明							
学習目的	精神疾患について初歩的な知識を得る							
学習目標	同上							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	精神医学概論 神経症圏の疾患	精神医学の概説と神経症圏の病気について						
第2回	統合失調圏の疾患	統合失調症圏の疾患について						
第3回	気分障圏の疾患	気分症圏の疾患について						
第4回	その他の重要な精神疾患	認知症、発達障害等について						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	やさしい精神医学（南山堂）							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
履修の ポイント								
オフィス ・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進Ⅲ		担当者	松田安弘	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要								
学習目的								
学習目標								
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	脳神経系機能の理解① －運動機能－	日常生活動作「動く」に関連する運動器系・脳神経系の機能と構造						
第2回	脳神経系機能の理解① －感覚機能－	日常生活動作「動く」に関連する感覚器系・脳神経系の機能と構造						
第3回	脳血管疾患による機能障害	脳血管疾患：頭蓋内出血、脳梗塞とそれによる障害 (運動機能障害、感覚機能障害、言語機能障害)						
第4回	脳血管疾患の治療・検査	脳血管疾患の外科的治療、内科的治療						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	特になし							
参考書	授業時間内に提示する							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%評価							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	疫学		担当者	工藤安史	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2年	曜日	金
	教職に関する科目	必修	(時間)	(30時間)			時限	2
授業の概要	疫学概念と歴史、疾病の指標、疫学研究、スクリーニング、主な疾病の疫学、疫学研究の倫理について学ぶ。講義で解説をしたのちに、国家試験の問題などを多数解くことで、知識を定着させる。							
学習目的	根拠に基づいた医療 (EBM:evidence-based medicine)を推進できるようになる。							
学習目標	疫学の本質を理解し、疫学に関連する文献を読みこなせる学力を身に着ける。また、疫学の研究を自ら推進できるようになるための基礎を身につける。練習問題を数多く解くことで、2年生の段階で、国家試験に合格できるレベルに到達する。							
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	疫学とは	疫学概念や歴史を学ぶ。						
第2回	疾病の指標(1)	有病率、罹患率、死亡率などについて学ぶ。						
第3回	疾病の指標(2)	年齢調整死亡率などについて学ぶ。						
第4回	疾病の指標(3)	疾病の指標に関する練習問題を解く。						
第5回	疫学研究(1)	標本抽出、記述疫学、横断研究、生態学的研究などについて学ぶ。						
第6回	疫学研究(2)	症例対照研究、コホート研究、介入研究などについて学ぶ。						
第7回	疫学研究(3)	疫学研究に関する練習問題を解く。						
第8回	疫学研究(4)	疫学研究に関する練習問題を解く。						
第9回	スクリーニング(1)	感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度などについて学ぶ。						
第10回	スクリーニング(2)	スクリーニングに関する練習問題を解く。						
第11回	スクリーニング(3)	スクリーニングに関する練習問題を解く。						
第12回	主な疾病の疫学(1)	感染症、悪性新生物などを学ぶ。						
第13回	主な疾病の疫学(2)	循環器疾患、代謝疾患などを学ぶ。						
第14回	疫学研究の倫理	疫学研究に関する倫理指針や倫理審査委員会などについて学ぶ。						
第15回	まとめ	講義の総復習を行う。						
教科書	日本疫学会、はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版、南江堂							
参考書	国民衛生の動向 2012/2013 厚生統計協会 □							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験のみで、単位認定を行う。							
履修のポイント	講義は、すべてレジメを配布する。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	保健統計学		担当者	工藤安史	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2年	曜日	金
			(時間)	(30時間)			時限	3
授業の概要	データの表現法、母平均の推定、仮説検定、データの解析、人口動態統計や死因統計などの保健統計について学ぶ。また、国家試験も数多く解いてもらい、保健統計学の知識を定着させる。							
学習目的	根拠に基づいた医療 (EBM:evidence-based medicine)を推進できるようになる。							
学習目標	基礎的な医療文献を読みこなすのに必要な保健統計学の基礎を学ぶ。また、看護研究を推進するのに必要な保健統計の基礎力を身につける。練習問題を数多く解くことで、2年生の段階で、国家試験に合格できるレベルに到達する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	統計学とは		実際の保健統計のデータを電卓で計算してみることで、データに慣れる。					
第2回	データの表現法 (1)		統計学特有の表現を理解できるようにする。					
第3回	データの表現法 (2)		度数分布表などを作成する。					
第4回	データの表現法 (3)		分布の特性値 (平均、標準偏差など) について学ぶ。					
第5回	データの表現法 (4)		確率分布などを学ぶ。					
第6回	母平均の推定 (1)		正規分布、標準正規分布などについて学ぶ。					
第7回	母平均の推定 (2)		有意水準、信頼限界、中心極限定理などを学ぶ。					
第8回	母平均の推定 (3)		標準正規分布を使って、母平均の推定を学ぶ。					
第9回	母平均の推定 (4)		t分布と母平均の推定を学ぶ。					
第10回	仮説検定		仮説検定とは何かを学ぶ。					
第11回	データの解析 (1)		t検定、カイ二乗検定などを学ぶ。					
第12回	データの解析 (2)		相関係数と回帰分析などを学ぶ。					
第13回	保健統計の調査 (1)		人口静態統計、人口動態統計などを学ぶ。					
第14回	保健統計の調査 (2)		死因統計、有訴者率、受療率などを学ぶ。					
第15回	まとめ		講義の総まとめを行う。					
教科書	鳥居泰彦、はじめての統計学、日本経済新聞出版社							
参考書	国民衛生の動向 2012/2013 厚生統計協会							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験							
履修のポイント	講義は、すべてレジメを配布する。ルート計算のできる関数電卓を持参すること。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	医療保健福祉行政論		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>医療保健職として必要な基礎的知識である現在の保健医療福祉行政の制度的枠組み、現実の保健医療福祉活動について理解する。          まず、保健医療福祉行政の理念としくみについて、歴史的変遷・諸外国の制度と対比させながら、学習する。その上で、現在の医療保健福祉に関する制度を学習する。さらに、市町村を中心とした地方自治体での保健医療福祉行政がどのように立案・実施されているかを中心に学習する。最後に、保健医療福祉職が現場でいかなる活動をしているかについて、その役割・責務・倫理等について触れながら学習する。</p>							
学習目的	医療保健職として必要な知識・倫理等を身につける。							
学習目標	現在の保健医療福祉行政の枠組み、現実の保健医療福祉活動を理解する。医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	医療保健福祉と行政 医療保健福祉制度の変遷	国及び地方自治体による行政がどのように実施されるかを学習し、その上で医療保健福祉に関する行政の仕組みについて概観する。また、わが国の医療保健福祉制度の基礎がどのように形成され、またそれがどのように変化してきたかについて学習する。						
第2回	医療保健福祉制度の課題と発展	医療保健福祉制度が現在どのような課題に直面しているのか、それに対してどのような対応策がとられているのかを学習する。						
第3回	医療保健福祉行政のしくみ	国、都道府県、市町村の医療保健福祉行政のしくみと役割について、学習する。						
第4回	医療保健福祉財政のしくみ	国、都道府県、市町村の医療保健福祉財政のしくみと現状について、学習し、その課題と対策について学習する。						
第5回	日本における社会保障	わが国の社会保障制度の概要について学習する。社会保険、社会福祉、公的扶助のそれぞれの分野について概観する。						
第6回	医療提供体制	医療保険制度の概要について学習し、医療サービスがどこでどのような形で行われるかについて学習する。						
第7回	介護保険制度	介護保険制度の概要やしくみ、現状について学習する。						
第8回	社会保障・社会福祉の制度	高齢者に関する制度を中心に社会保障・社会福祉の制度について学習する。 ★中間試験（第1回～第8回）						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	藤内修二・他著『＜標準保健師講座 別巻1＞保健医療福祉行政論』（医学書院）							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点、レポート、テスト等を総合評価。							
履修のポイント	オムニバス形式の授業となるので、各担当ごとの試験・課題等の結果の合算で評価がなされる。							
オフィス・アワー	(松原)月・火・木曜日, 11時～15時(授業時間以外), 9号館3階第9研究室							

平成25年度 シラバス

科目名	医療保健福祉行政論		担当者	小此木久美子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	必修	単位 (時間)	2単位 30時間	学年	2学年	曜日 時限	
別表1	「保健福祉行政論」		別表3	「健康支援と社会保障制度」				
講義の概要	医療保健職として必要な基礎的知識である現在の保健医療福祉行政の制度的枠組み、現実の保健医療福祉活動について理解する。 まず、保健医療福祉行政の理念としくみについて、歴史的変遷・諸外国の制度と対比させながら、学習する。その上で、現在の医療保健福祉に関する制度を学習する。さらに、市町村を中心とした地方自治体での保健医療福祉行政がどのように立案・実施されているかを中心に学習する。最後に、保健医療福祉職が現場でいかなる活動をしているかについて、その役割・責務・倫理等について触れながら学習する。							
学習目的	医療保健職として必要な知識・倫理等を身につける。							
学習目標	現在の保健医療福祉行政の枠組み、現実の保健医療福祉活動を理解する。医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。							
授業計画								
回	主題	内 容						備考
第1回	地域保健の体系	地域保健法に基づく保健所の機能強化。組織や業務について学習する。						担当：小此木
第2回	健康危機管理と医療安全対策	健康危機管理の事前管理と発生管理の内容を学習する。医療安全対策として医療事故や院内感染防止の基本と対応を学習する。						担当：小此木
第3回	保健師活動における情報管理	日本における情報公開制度と個人情報制度を理解する。個人情報保護の理念を学び、保健活動の重要性を学習する。						担当：小此木
第4回	地方公共団体の保健医療福祉計画へ	自治法に基づいて市町村総合計画が策定されていることを学ぶ。計画の推進するため他部署の計画について根拠を含めて学習する。						担当：小此木
第5回	保健計画の策定のプロセス	計画策定プロセスの各段階のポイント及び住民の参画の意味形態について理解する。						担当：小此木
第6回	保健計画の推進と評価	保健計画推進のポイントを学ぶ。保健計画の評価の進め方について学習する。						担当：小此木
第7回	保健事業の立案プロセス	保健事業の企画立案プロセスを学習する。保健課題の立案を行う。						担当：小此木
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	藤内修二・他著『＜標準保健師講座 別巻1＞保健医療福祉行政論』（医学書院）							
参考書								
成績評価	平常点、レポート、テスト等を総合評価。60点以上で単位を認定する。							
履修のポイント	オムニバス形式の授業となるので、各担当ごとの試験・課題等の結果の合算で評価がなされる。							
オフィス・アワー	(松原)月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成25年度 シラバス

科目名	社会福祉学概論		担当者	原田 欣宏	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	本講義では、人間の生活と社会のかかわりや、自助・互助・共助・公助の過程を理解し、そのうえで我が国の社会保障の仕組みを学ぶ。家族・地域を軸として、我が国の社会の変遷を視野に置き、とりわけ社会構造の変容により我が国が大きく変わってきたことを、それに伴い築いてきた社会保障の変化、今日的課題を明らかにする。							
学習目的	医療と福祉の連携が重要視されている中で、福祉職はどのような視点で支援を行っているのか理解することを目的とする。							
学習目標	社会福祉・介護の土台となる我が国の社会構造・社会保障を理解する 具体的な事例を通して福祉の問題に対する支援の過程を理解する							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	社会の変容と福祉	市民権の確立と福祉国家の成立						
第2回	福祉と福祉政策	社会福祉の拡大と限定						
第3回	少子高齢化時代の福祉政策	福祉政策の調整と進展						
第4回	福祉政策における必要と資源	必要と福祉政策、必要の判定						
第5回	人権擁護と福祉政策	虐待に関する政策と実際の対応						
第6回	生活にかかわる政策	所得政策、雇用政策、教育、住宅						
第7回	福祉サービスの提供と援助活動	福祉サービスの利用過程、相談援助の原則						
第8回	福祉政策の課題と展望	社会不安と福祉政策の課題、地域福祉の政策と計画						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	『チャレンジ現代社会と福祉』法律文化社 2012年6月発行							
参考書	なし							
成績評価	単位認定 60 点以上 復習テスト（毎回、授業冒頭に実施）60%以上で単位認定 ※授業態度を加味する							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

## 平成25年度 シラバス

科目名	看護学原論Ⅰ（看護の本質）		担当者	佐々木かほる	学科	看護学科	開講期	前期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日		
			(時間)	(15時間)			時限		
授業の概要	看護学とは何か、看護は一体どのような知識が必要か、看護の道に入った1年生に看護学の全体像を把握するための情報を提供する。看護学の歴史的発展や看護学の基本概念である人間・健康・環境・看護について学習し、4つの概念が看護実践、看護教育・研究など、特に自ら学習しているカリキュラムの内容や学習活動を順序付けたり系統立てていることを学習する。								
学習目的	看護の歴史的発展や看護の基本概念である人間・健康・社会・看護について学習し、看護の成り立ちを理解する。								
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史的発展を通して、看護概念の変遷を知る。</li> <li>2. 看護の目標・対象・役割と機能を学習する。</li> <li>3. 看護の対象である人間の欲求・健康観・健康のとらえ方について学習する。</li> <li>4. さまざまな施設における看護職の役割と機能</li> </ol>								
<b>授 業 計 画</b>									
回	主 題	授 業 内 容					備 考		
第1回	ナイチンゲールの誕生によせて	①フローレンスナイチンゲールの誕生によせて②「看護の日」の意味、「看護師の日」の意味について③ナイチンゲール誓詞とピポクラテスの誓いについて					講義・演習		
第2回	看護の概念	看護の諸定義（看護の目標、対象、役割・機能の用語）を解説する					講義・演習		
第3回	看護の起源	①職業としての看護の誕生に関与した宗教と戦争 ②米国における職業的看護の誕生と発展					講義		
第4回	看護の起源	③日本における職業的看護の発展					講義		
第5回	看護実践に必要な主な諸概念	対象理解：欲求の視点からの人間、成長・発達の視点からの人間					講義		
第6回	看護実践に必要な主な諸概念	対象理解①健康の概念②環境					講義		
第7回	看護活動の場と看護実践	保健医療福祉チームと職種の役割					講義・演習		
第8回	看護活動の場と看護実践	保健医療サービスの場					講義・演習		
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	ライダー島崎玲子著：看護学概論 看護追求へのアプローチ 第2版、医歯薬出版株式会社、ヴァージニア・ヘンダーソン著：看護の基本となるもの、看護協会出版会								
参考書	ナイチンゲール著：看護覚え書決定版、医学書院								
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート及び筆記試験								
履修のポイント	自ら選択した看護職について、その発展過程を知り看護本質について考える								
オフィス・アワー	水・木曜日4限終了後（佐々木）								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	看護学原論Ⅱ (対象理解と看護理論)		<b>担当者</b>	佐々木かほる	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	看護が専門職であるためには科学的根拠のある看護実践が必要であり、看護理論は看護にその科学的根拠を与えている。実践のない看護学生には看護理論は難しい。ここでは看護構築の初期に開発された理論について興味ある理論家を選びグループで学ぶ。また、看護理論は対象の捉え方を示しているなのでその内容を通して対象を理解する。							
<b>学習目的</b>	看護理論の発展の歴史と看護理論の成り立ちや看護理論の機能と特徴を理解する。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護の概念と理論の意味と重要性を明らかにする</li> <li>2 看護理論構築の初期に開発された理論を要約することができる</li> <li>3 興味・関心のある看護理論から対象理解の方法を選択し、特徴を明らかにする</li> <li>4 看護理論を看護実践にどのように活用するか理解する</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回 10/5	学科目ガイダンス	学科目ガイダンス、看護理論に関連した用語の定義					講義	
第2回 10/12	看護理論概説	・主な看護理論の発展過程と背景・フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニアヘンダーソン、シスターC.ロイ、アイダJ、オーランド					講義	
第3回 10/19	ヘンダーソンの看護理論と対象理解	課題 ①看護理論を開発した理論家の背景、②看護理論の特徴、③対象理解					講義・演習	
第4回 10/26	シスター・C.ロイの看護理論と対象理解	課題 ①看護理論を開発した理論家の背景、②看護理論の特徴、③対象理解					講義・演習	
第5回 11/9	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習	
第6回 11/16	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習	
第7回 11/30	看護理論と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習	
第8回 12/7	まとめ	各理論家の対象把握の特徴					講義・演習	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	<b>教科書</b>	湯楨ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、ライダー島崎玲子著：看護学概論一巻のアプローチ (2冊とも看護学原論Ⅰで購入しているもの)						
<b>参考書</b>	<b>参考書</b>	都留伸子監訳：看護理論家とその業績第3版、医学書院、横尾京子監訳：看護理論と看護過程、医学書院						
<b>成績評価</b>	<b>成績評価</b>	課題についてのレポートと筆記試験						
<b>履修のポイント</b>	<b>履修のポイント</b>	60 点以上	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					
<b>オフィス・アワー</b>	<b>オフィス・アワー</b>	水曜日・木曜日12:30～13:20の昼休憩時間						

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	看護技術学概論		<b>担当者</b>	佐々木／三木／阿久澤	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	看護技術という概念や看護技術を構成する要素は何か、その対象を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要であるか理解する。また、看護技術の提供に共通する安全・安楽の技術、対象を自立に向けて支援する技術など看護技術学Ⅰ～Ⅵの特徴をオムニバス方式で講義・演習を通して学習する。							
<b>学習目的</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念、看護技術を構成する要素および、その対象を理解する</li> <li>2. 看護技術の提供に共通する安全・安楽・自立に向けた教育的支援について理解する</li> </ol>							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術とはなにか、構成要素・対象・用語について理解する</li> <li>2. 看護技術における安楽の意義、安楽確保の技術について理解する</li> <li>3. 看護技術における安全の意義、安全管理の技術について理解する</li> <li>4. 看護技術における教育的支援の意義、教育指導技術について理解する</li> <li>5. 看護過程の基本について理解する</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	看護技術学概説	看護技術とはなにか？ 看護技術の構成要素とはなにか？ 看護技術の対象とは？ 看護技術の用語について					講義	
第2回	安楽確保の技術	安楽の意義、安楽な体位の基本					講義	
第3回	安楽確保の技術	ボディメカニクスの基本					講義	
第4回	安全管理の技術	安全の意義 療養環境における危険防止					講義	
第5回	安全管理の技術	感染予防の技術、日常的手洗い					講義・演習	
第6回	教育指導技術	自立に向けた教育的支援の意義					講義	
第7回	看護過程の基本	クリティカルシンキングとはなにか？					講義	
第8回	看護過程の基本	看護過程とはなにか？ 看護過程の5つの段階について					講義	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メヂカルフレンド社							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験にて評価							
<b>履修のポイント</b>	主体的に学習することを望む							
<b>オフィス・アワー</b>								

# 平成25年度 シラバス

科目名	看護技術学 I (生活行動支援技術)		担当者	三木／林／阿久澤／池田	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	<p>様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、栄養状態を保つ、呼吸や循環を整える、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠を基に学習する。</p>							
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する</li> <li>2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する</li> <li>3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする</li> </ol>							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 十分な事前学習をして演習に臨む</li> <li>2. 教員の演示する日常生活行動の援助の技術に注目する</li> <li>3. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する</li> <li>4. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する</li> <li>5. 決められた手順に則って実施する</li> <li>6. 日常生活行動の援助の技術を行うために自発的に練習する</li> <li>7. 演習で教員から提示された技術修得に向けた課題に耳を傾ける</li> <li>8. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術の修得に意欲を示す</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	環境を整える技術		入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について			講義		
第2回								
第3回	ベッドメイキング		ベッドメイキング (課題レポート)			演習		
第4回								
第5回	活動・休息の援助技術		運動の意義と援助、休息の意義と援助、睡眠とその援助 移動の援助			講義		
第6回								
第7回	体位変換 移動		体位変換、車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)			演習		
第8回								
第9回	環境整備 臥床患者のシーツ交換		病床の環境整備、臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)			演習		
第10回								
第11回	衣生活の援助技術		衣生活の意義と援助方法			講義		
第12回	寝衣交換		寝衣交換 (課題レポート)			演習		
第13回	清潔の援助技術		清潔の意義と援助方法 皮膚の清潔・粘膜の清潔			講義		
第14回								
第15回	全身清拭		全身清拭 (課題レポート)			演習		
第16回								
第17回	洗髪 口腔ケア		洗髪、口腔ケア (課題レポート)			演習		
第18回								

平成25年度 シラバス

第19回	食生活の援助技術	食事の意義、食生活の基本的援助	講義
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義、排泄のメカニズム、基本的援助	講義
第22回			
第23回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の当て方、陰部洗浄 (課題レポート)	演習
第24回			
第25回	感染予防の技術	感染予防とは、感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義
第26回			
第27回	感染予防の技術	日常の手洗い、無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習
第28回			
第29回	技術テスト	実技試験	試験
第30回			
教科書	新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術ⅠⅡ メヂカルフレンド社 基礎看護学 第3版 演習・実習に役立つ基礎看護技術 ニューウェルヒロカワ		
参考書			
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 70%、実技試験 30%		
履修の ポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる		
オフィス ・アワー			

平成25年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅱ (治療過程支援・症状緩和技術)		担当者	三木／林／阿久澤／池田	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる、また、様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などの看護の視点で症状緩和方法について学習する。							
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する</li> <li>2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する</li> <li>3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する</li> <li>4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする</li> </ol>							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 十分な事前学習をして演習に臨む</li> <li>2. 教員の演示する治療過程支援技術および、症状緩和技術に注目する</li> <li>3. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を述べる</li> <li>4. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整をする</li> <li>5. 決められた手順に則って実施する</li> <li>6. 治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うために自発的に練習する</li> <li>7. 演習で教員から提示された技術修得に向けた課題に耳を傾ける</li> <li>8. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に意欲を示す</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	バイタルサイン		バイタルサインとは？ バイタルサインの観察方法、記録・報告				講義	
第2回								
第3回	バイタルサイン		バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)				演習	
第4回								
第5回	呼吸・循環を整える技術		呼吸の意義、吸引(一時的・持続的)、酸素吸入療法 人工呼吸				講義	
第6回								
第7回	吸引・酸素吸入療法		一時的吸引法、酸素吸入療法 (課題レポート)				演習	
第8回								
第9回	与薬の技術		薬物療法の意義・目的、看護師の役割、患者の援助 与薬に関する基本知識				講義	
第10回								
第11回	与薬の技術 検査に伴う看護技術		与薬の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法 検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)				講義	
第12回								
第13回	静脈血採血		静脈血採血の方法、感染性廃棄物の取り扱い (課題レポート)				演習	
第14回								
第15回	各種注射法		筋肉内注射、点滴静脈内注射 (課題レポート)				演習	
第16回								
第17回	排泄の援助技術		排便障害と援助方法、排尿障害と援助方法				講義	
第18回								

## 平成25年度 シラバス

第19回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸、一時的導尿（課題レポート）	演習
第20回			
第21回	食生活と栄養摂取の援助技術	経腸栄養（経管栄養、胃瘻栄養）	講義
第22回	経管栄養法	経管栄養法（課題レポート）	演習
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは、代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義
第24回			
第25回	足浴・マッサージ 罨法	足浴・マッサージ、冷罨法・温罨法（課題レポート）	演習
第26回			
第27回	技術テスト	実技試験	試験
第28回			
第29回	総合演習	総合演習（課題レポート）	演習
第30回			
教科書	新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術 I II メヂカルフレンド社 基礎看護学 第3版 演習・実習に役立つ基礎看護技術 ヌーヴェルヒロカワ		
参考書			
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 70%、実技試験 30%		
履修の ポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる		
オフィス ・アワー			

平成25年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅲ		担当者	阿久澤 智恵子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2 学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための知識と基本的技術を学ぶ。特に身体的アセスメントについては、看護実践の基盤となる観察技術を中心に正確な身体情報を把握する。さらにその情報から対象者の健康レベルや正常・異常を判断できるまでの一連のアセスメント技術と看護者として望ましい基本的態度を習得する。							
学習目的	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的観察・測定技術の必要性と方法を学ぶ。さらに対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者としての基本的態度が習得できる。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの意義及び必要性を理解できる。</li> <li>人間を身体的・心理・社会的存在として捉える重要性を認識できる。</li> <li>ヘルスアセスメントの基本的技術を学び、習得できる。</li> <li>身体の構造と系統的な観察、アセスメントができる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ヘルスアセスメントの概要	ヘルスアセスメントの目的と意義					講義	
第2回	ヘルスアセスメントの基本技術	面接・問診技術、観察・測定・記録技術					講義	
第3回	演習 面接技法とアセスメント	ヒストリーテキング・アセスメントの実際					演習（教室）	
第4回	フィジカルアセスメントの基本的技法	問診・視診・触診・打診・聴診					講義	
第5回	演習 測定技術とアセスメント	身体各部の測定の実際					基礎成人演習室	
第6回	アセスメントの視点①	必要な情報とその解釈・分析ゴードンの機能的健康パターンを用いて					講義	
第7回	アセスメントの視点②	必要な情報とその解釈・分析ゴードンの機能的健康パターンを用いて					講義	
第8回	系統別アセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方					講義	
第9回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室	
第10回	系統別アセスメント	循環器のフィジカルアセスメントの進め方					講義	
第11回	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室	
第12回	系統別アセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントの進め方					講義	
第13回	演習	消化器系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室	
第14回	系統別アセスメント	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの進め方					講義	
第15回	演習	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室	
教科書	ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学 ヘルスアセスメント メディカ出版							
参考書	山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる」第2版 医学書院							
成績評価	単位認定 60 点以上 講義・演習参加状況、演習レポート、課題、GW、筆記試験を総合して評価する。							
履修のポイント	事前学習課題を行い、主体的・積極的に参加すること。記録類の提出は、時間厳守すること。							
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅳ (看護過程演習)		担当者	三木	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護過程の展開は看護理論をもとに、対象にどのような問題点があるか、どのような看護科ケアが必要か、そのような事象が展開されるかを予測的に説明することができる方法である。この科目は専門基礎で学んだ知識と看護学を統合する学習であり、既修学習した様々な知識を想起して、これからはじまる看護学各論の科目、特に臨地実習と関連させる方法論を学ぶ。							
学習目的	科学的な根拠に基づき、個別性のある看護を実践するための方法論を理解する							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「看護過程とは」を定義する</li> <li>2. 看護過程の各段階と機能を明らかにする</li> <li>3. 看護過程の展開方法を学習する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一段階「アセスメント」を展開する方法を理解する</li> <li>・ 第二段階「診断（問題の明確化）」を展開する方法を理解する</li> <li>・ 第三段階「計画」を展開する方法を理解する</li> <li>・ 第四段階「実施」を展開する方法を理解する</li> <li>・ 第五段階「評価」を展開する方法を理解する</li> </ul> </li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	看護過程概説 看護過程の各段階と機能		看護過程とは 看護過程の各段階と機能とは				講義・演習	
第2回	アセスメント		情報収集、分析				講義・演習	
第3回	アセスメント		情報収集、分析				講義・演習	
第4回	アセスメント		事例をもとにグループ学習（課題レポート）				講義・演習	
第5回	アセスメント		事例をもとにグループ学習（課題レポート）				演習	
第6回	診断		看護診断（問題の明確化）				講義・演習	
第7回	診断		看護診断（問題の明確化）				講義・演習	
第8回	診断		事例をもとにグループ学習（課題レポート）				演習	
第9回	中間試験 計画		中間試験 期待される成果とは				試験 講義・演習	
第10回	計画		看護活動の選択、ケア計画の立案				講義・演習	
第11回	計画		事例をもとにグループ学習（課題レポート）				演習	
第12回	計画		事例をもとにグループ学習（課題レポート）				講義・演習	
第13回	実施		準備、活動、記録				講義・演習	
第14回	評価		目標達成の評価、ケア計画の修正、結果の伝達				講義・演習	
第15回	まとめ		看護過程のまとめ				講義・演習	
教科書	基本から学ぶ看護過程と看護診断 看護診断ハンドブック							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%（中間試験20%、期末試験60%）、課題レポート20%							
履修の ポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる							
オフィス ・アワー								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	看護技術学Ⅴ		<b>担当者</b>	阿久澤智恵子・林圭子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	2学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	健康者に対しては、疾病を予防し健康の保持増進のための正しい知識を普及し、自らの健康を自ら守るというセルフケアの必要性を高めるための「健康教育」の方法を学ぶ。また、健康障害者には、早期治療、疾病の理解・受容、障害からの回復に向けての生活指導やセルフケアの促進、社会参加が容易になるような「患者教育」の方法を学ぶ。							
<b>学習目的</b>	看護における教育的関わりについて理解し、さまざまな健康レベルにある対象者が健康に対する望ましい考えや行動を獲得できるよう側面から支援する方法について学ぶ。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における教育的関わりの必要性を理解する。</li> <li>2. 各健康レベルに応じた教育・指導の違いを理解する。</li> <li>3. 教育支援のプロセスを理解する。</li> <li>4. 行動変容をうながす教育支援の具体的方法を考える。</li> <li>5. 事例に基づき、対象者に必要な教育支援プランを立案し発表する。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	看護における教育的関わり	看護における教育・指導とは					阿久澤	
第2回	健康レベルに応じた教育支援	健康に生きることを支える教育・指導					阿久澤	
第3回	教育支援技術のプロセス	アセスメント・計画・教育・評価					阿久澤	
第4回	教育支援における理論の活用	行動変容をうながす保健指導・患者指導					阿久澤	
第5回	教育支援の必要な事例の展開①	教育支援の必要な事例（グループワーク）					阿久澤・林（圭）	
第6回	教育支援の必要な事例の展開②	教育支援の必要な事例（グループワーク）					阿久澤・林（圭）	
第7回	事例展開の発表①	教育支援プラン発表					阿久澤・林（圭）	
第8回	事例展開の発表②	教育支援プラン発表					阿久澤・林（圭）	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社							
<b>参考書</b>	坂野雄二・前田基成編著：セルフ・エフィカシーの臨床心理学、北大路書房、							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 グループワークによるレポート50%、発表の態度・参加度10%、最終レポート40%							
<b>履修のポイント</b>	理論を用いて事例展開し、看護における教育支援の役割を考える							
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅵ（対人援助方法）		担当者	鈴木裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	木曜
			(時間)	(15時間)			時限	4限
授業の概要	看護の対象はライフサイクルや健康レベルのあらゆる段階にある人を対象にすることから、より高い対人援助力が必要となる。若い看護職のコミュニケーション力の低下も指摘されている。対人援助における、人間関係やコミュニケーションについての理解を深めながら授業を進める。具体的には、自己理解や他者理解、人間関係理解を深めながら対人援助方法としての手法を実践的に学ぶ。人間関係やコミュニケーションの知識を深めスキルを高めることを中心に看護における対人援助方法を学ぶ。							
学習目的	看護技術における対人援助、コミュニケーションや相談技術の理解を深め、実践的に学ぶ。心と体、社会的存在としての対象理解、また対人援助のチームワークや関係職種との連携へと視野を広める。							
学習目標	看護における対人援助方法について理解し、知識と技術を身につける。また自己理解、他者理解、人間関係理解を深め、コミュニケーションと相談の技術を高める。対人援助のチームワークや関係職種との連携について理解を深める。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	対人援助方法とは		看護職の対人援助機能					
第2回	人間関係の意味		看護における人間関係と援助方法					
第3回	コミュニケーション		アサーティブ・コミュニケーション					
第4回	カウンセリング		看護相談技術					
第5回	看護教育指導		看護教育指導技術					
第6回	ピア・サポート		看護ピア・サポートの実際					
第7回	対象別援助		対象別対人援助方法					
第8回	保健医療福祉関係職種との連携		保健医療福祉チームにおける看護職の対人援助機能					
教科書	なし							
参考書	津村俊充著 人間関係トレーニング, 保健同人社 新しい健康養育, トレーナー・コール 亀山静子訳 ピア・サポート実践マニュアル							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験70%, リアクションペーパー20%, 授業態度10%							
履修のポイント	コミュニケーションやカウンセリングなどの基本的スキルを活用した看護における相談と指導、連携と調整についての理解を深める。							
オフィス・アワー	火曜日/木曜日 4限							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	基礎看護学実習 I (日常生活支援技術)	<b>担当者</b>	阿久澤／三木	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期	
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	1学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(45時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	看護の対象である患者および患者をとりまく生活の場を理解し、実際に観察、コミュニケーションの技術を活用しながら、対象者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。また、看護の主要な対象である患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解し、看護が担う役割と責任について理解する							
<b>学習目的</b>	看護者の立場から、コミュニケーションや観察を通して患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解する。また、患者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。本実習を通して看護の役割と責任について理解を深める							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者に必要な日常生活行動の援助について、原理・原則に基づき実施方法を計画する</li> <li>2. 患者に必要な日常生活行動の援助を実施する</li> <li>3. 患者に質の高い技術を提供するための看護師の責任について説明する</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、日常生活行動の観察 カンファレンス						
第2回	臨地実習	日常生活行動および援助の観察、健康状態の観察 日常生活行動の援助計画立案						
第3回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス						
第4回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス						
第5回	臨地実習	日常生活行動の援助の実施 カンファレンス						
第6回								
第7回		詳細は、基礎看護学実習 I 要項参照						
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>								
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照							
<b>履修のポイント</b>								
<b>オフィス・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)		担当者	三木／阿久澤	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(90時間)			時限	
授業の概要	健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学習する。実施においては習得した技術の提供を通し、看護技術の個別化の意義を学ぶ。さらに、看護師としてふさわしい態度を考え、自己を振り返り、看護への理解と関心を深める。							
学習目的	健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学ぶ							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人の患者を受け持ち、アセスメント、診断、計画、実施、評価の一連の過程を経験する</li> <li>2. 看護理論に基づいて看護技術を個別化する方法を理解する</li> <li>3. 質の高い看護を提供するために、倫理観や科学的根拠に基づき、看護を展開することの看護師の責任を確認する</li> <li>4. 目標1～3を通し、看護学の学習上の課題を明らかにする</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集カンファレンス						
第2回	臨地実習	情報収集、データの再収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス						
第3回	臨地実習	データの再収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス						
第4回	臨地／学内実習	データの再収集、意味のあるデータの抽出 関連図作成						
第5回	臨地実習	データの再収集、意味のあるデータの抽出カンファレンス						
第6回	臨地実習	問題の明確化、優先順位の決定、目標の設定カンファレンス						
第7回	学内実習	目標の設定 観察計画・直接ケア計画・教育計画の立案						
第8回	臨地実習	計画の実施・評価カンファレンス						
第9回	臨地実習	計画の実施・評価カンファレンス						
第10回	臨地実習	計画の実施・評価カンファレンス						
第11回								
第12回		* 詳細は、基礎看護学実習Ⅱ要項参照						
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成25年度 シラバス

科目名	母性看護学概論		担当者	馬橋和恵	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	<p>身体的、精神心理的、社会・行動的特性、スピリチュアリティの観点から母性の概念を学習する。母性看護の役割や機能についてその歴史から現況までの動向を知る。性、生殖および女性のライフステージにおける母性の特徴を理解し、母性看護の対象者を看るための視点を養う。母子およびその家族、社会までを総合的、統合的に見ていき、看護をプロデュースしていく母性看護学の基盤を学び、今後の学習の道しるべとする。</p>							
学習目的	<p>母性を取り巻く背景を明確にし、女性の発達過程、各期における生活、健康問題を理解し、健康に過ごすための生活のあり方、保健行政のしくみ、保健医療の果たす役割とその中における看護の役割について学習する。さらに、看護者としての自らの感性を生かし、性やいのちへの思いを他と語り合い、いのちを育む素晴らしさを体験する土壌を創る。</p>							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性、父性及び家族の概念と発達課題を理解することができる。</li> <li>2. 母性看護学の役割・機能と対象の理解ができる。</li> <li>3. リプロダクティブヘルス・ライツについて理解できる。</li> <li>4. ライフサイクル各期の特徴と健康問題について理解することができる。</li> <li>5. セクシャリティについて理解し、自らの考えを表現することができる。</li> <li>6. 母子保健の動向を知り、母子保健行政の施策を理解することができる。</li> <li>7. 性やいのちについて、自分の感じていることをまとめ、表出することができる。</li> </ol>							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	母性と”いのち”	母性とは?”いのち”とは?自分の内にもある”いのち”を感じてみよう					必ず出席すること	
第2回	導入/母性看護の基盤となる概念1	授業のセットアップ、学習の手順、授業最終日に行うグループ課題発表会に関する説明、母性の概念、女性と母性および父性					必ず出席すること	
第3回	母性看護の基盤となる概念2	母子関係と家族発達、性とセクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、						
第4回	母性看護理解のための現状把握	母性看護の歴史的変遷と現状、母子保健統計の動向、母子保健・看護に関する法律と施策、母性看護の場と職種						
第5回	母性看護の対象理解	女性のライフサイクルにおける形態と機能、女性と家族、母性の発達・成熟・継承						
第6回	グループ課題発表会	思春期の健康と看護①②、成熟期の健康と看護①②、更年期の健康と看護①②、老年期の健康と看護①②とグループに分かれて発表					必ず出席すること	
第7回	グループ課題発表会	発表グループ以外は各グループの発表を課題用紙に書き取り授業終了時に集める(第6回、7回授業は2コマ続けて行う)					必ず出席すること	
第8回	まとめ	近年増加している女性疾患について各期の健康問題について					必ず出席すること	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	森恵美他 母性看護学概論 医学書院 (2012)							
参考書	適宜紹介・資料配布							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業・演習・グループワークへの参加姿勢60% (特にグループ課題発表会への参加プロセスを評価)、授業毎の課題レポート40%、(定期テストなし)							
履修のポイント	母性看護学概論では”いのち(性)”について感じたり、触れたりする学問の導入を学びます。共に感性を磨いていきましょう。第9(初回)、10、14、15回の授業は出席して下さい。やむを得ず欠席の時は必ず事前に連絡し後日面談/補講になります。							
オフィス・アワー	実習、講義、会議、研究活動などで不在のとき以外は、学生さんといつでも話せるようにお待ちしています。面談予約して下さい。面談予約して下さい。							

平成25年度 シラバス

科目名	母性看護方法		担当者	馬橋和恵	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2	学年	2年	曜日	
			(時間)	60			時限	
授業の概要	母性の特性を理解し、各時期における対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復への過程における看護を知識と技術の両面から習得する。また、母性の健全な成長・発達を促す援助方法を考え、女性とその家族の健康保持・増進・発達課題の達成をサポートするための知識を習得する。さらに、新生児の身体的特徴を理解し、精神心理・社会的ニーズも含め、新生児の健康状態を把握することによって、母子の愛着形成や母乳哺育を促進することを学習する。また、新生児が順調に成長・発達していくための看護を学ぶ。時代に即した母性看護を学ぶため、災害時看護、国際化、メンタルヘルスなども視野に入れた授業を行う。							
学習目的	妊娠期、分娩期、産褥期における母性の身体的・精神心理的・社会的・スピリチュアルの特徴を捉え、対象のニーズ・健康・健康問題への援助について学習する。女性のライフサイクルにおける発達・健康課題やライフイベントをふまえた援助方法を学ぶ。母子関係、新生児の発達・健康課題をふまえた援助方法を学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠のメカニズムを理解できる。</li> <li>2. 妊娠による女性の身体的変化および精神心理・社会的変化を理解できる。</li> <li>3. 胎児の発育・発達を理解できる。</li> <li>4. 妊娠健康診査および妊娠中の保健指導の必要性と内容が理解できる。</li> <li>5. 分娩のメカニズムを理解できる。</li> <li>6. 分娩各期の看護が理解できる。</li> <li>7. 産褥期における女性の身体的変化、精神心理・社会的変化を理解できる。</li> <li>8. 産褥期の身体的変化、精神心理・社会的変化を理解できる。</li> <li>9. 母子関係・父子関係の確立への支援について理解できる。</li> <li>10. 新生児の生理的変化と看護の実際が理解できる。</li> <li>11. 母乳哺育促進への援助について理解できる。</li> <li>12. 健康教育の必要性を理解し、教育に必要な知識を習得できる。</li> <li>13. 妊娠産婦・新生児に対する看護過程の展開が理解できる。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	いのち（性）を取り巻く諸課題と看護者の倫理観	子どもを生み・育てるといふことは？ 遺伝相談、障がいを持つ子どもの理解、不妊カップルへの看護、周産期の死を体験した家族への理解と看護、虐待を受けた人および子どもへの理解と看護				初回は必ず出席のこと（やむを得ず出席できない場合は事前に連絡し、後日面談/補講）		
第2回								
第3回	妊娠期における看護 1	妊娠期の身体的特性、心理・社会的特性、スピリチュアリティ						
第4回	妊娠期における看護 2	妊娠期の女性と胎児のアセスメント、妊娠期の女性と家族の看護						
第5回	分娩期における看護 1	分娩の要素、分娩の経過、産婦・胎児・家族のアセスメント						
第6回	分娩期における看護 2	産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際						
第7回	新生児期における看護 1	新生児の生理、新生児のアセスメント						
第8回	新生児期における看護 2	新生児の看護、新生児のこころとは？						
第9回	産褥期における看護 1	産褥経過、産婦のアセスメント、						
第10回	産褥期における看護 2	産婦と家族の看護、施設退院後の看護						
第11回	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 1	妊娠の異常と看護、分娩の異常と看護						
第12回	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 2	新生児の異常と看護、産褥の異常と看護						
第13回	グループ課題発表会	リプロダクティブヘルスケアに関する8課題につきグループに分かれて探求、まとめてきたものを発表（第13回第14回は2コマ続き）①家族計画②性感染症とその予防③HIVに感染した女性に対する看護④人口妊娠中絶と看護⑤喫煙女性の健康と看護⑥性暴力を受けた女性に対する看護⑦児童虐待と看護⑧国際化社会と看護 課題発表以外の学生は課題用紙に他グループの発表内容を書き取り授業終了時提出				必ず出席すること		
第14回								
第15回	男性への看護	女性の看護をするためには、パートナーである男性を知ることが必要不可欠、そして思春期以降、女性と子どもが妊娠期～産褥早期を経て退院後も心身共に健康であるには男女間、家族間、人間関係が良好なことが重要です。これからの看護に必要な要素を全員で考えてみましょう				2コマ連続授業（グループで考察していくので全員出席必要）		
第16回	パートナーシップへ向けた看護							
第17回	母性看護におけるヘルスマーション	エンパワーメント、思春期、妊娠期～産褥期における健康教育、健康増進支援とは、（講義1時間後グループに分かれて課題学習、健康教育計画を時間内にグループでまとめる）				2コマ連続授業（教科書2冊および健康教育に関する参考書を図書館からグループで借りて持参）		
第18回								

## 平成25年度 シラバス

第19回	災害と母性看護、 国際母性看護	いのちを守り、育み、慈しむ母性看護の災害時に役立つ場面・場所、グローバルヘルスの中の母性看護の位置づけ、母性看護職の活動、国際化社会の中で今後期待される役割	教科書は使いません
第20回	母性とところ	母性看護の対象 (自分、相手、女性、子ども、パートナー、家族、社会・・・)の ところを理解する	教科書は使いません
第21回	母性看護過程の展開	妊娠期の女性における看護過程の展開 (実習では実践と看護過程の展開が必要になります。そして母性 ではウェルネスの視点が欠かせません。しっかりと基礎から学び ましょう)	教科書2冊および母性 関連の本をできる限 り持参
第22回			
第23回	母性看護過程の展開	産褥期の女性における看護過程の展開 (実習では実践と看護過程の展開が必要になります。そして母性 ではウェルネスの視点が欠かせません。しっかりと基礎から学び ましょう)	教科書2冊および母性 関連の本をできる限 り持参
第24回			
第25回	グループ課題発表会	各グループで学習し、計画してきた健康教育を発表する (①妊娠中の保健教育②親になるための準備教育③分娩に関する保健教 育④産褥期の健康教育⑤育児への健康教育⑥退院後の短期的母子保健教 育⑦退院後の中期的母子健康教育⑧退院後の長期的母子健康教育⑨思春 期の性教育⑩不妊カップルへの健康教育⑪更年期の性教育⑫老年期の性 教育)	必ず出席すること
第26回			
第27回	母性看護技術演習	妊娠期から分娩期のケア演習 (観察、妊娠期の健康診査、分娩期にある女性への関わり方)	必ず出席すること
第28回			
第29回	母性看護技術演習	産褥期、新生児のケア演習 (観察、新生児沐浴、計測、産褥期の女性・新生児およびその家 族とのコミュニケーション)	必ず出席すること
第30回			
教科書	森恵美他 母性看護学概論 医学書院 (2012) (*前期購入の本を持参すること)、森恵美他 母性看護学各論 医学書院 (2012)		
参考書	マタニティ診断ガイドブック第3版 日本助産診断・実践研究会 2010 医学書院、太田操編著 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 2009 医歯薬出版株式会社		
成績評価	単位認定 60 点以上 授業・演習・グループワークへの参加姿勢50% (特にグループ課題発表会への参加プロセスを評価)、授業毎の課題レポート30%、筆記試験20%		
履修のポイント	実習に向けて、もう一度母性看護の学びを具体的に深めてみましょう。自分のいのち、周りの人のいのち、生きとし生けるもの全てのいのちを感じてみましょう。演習や課題発表などの体験学習を通じて皆さんと一緒に新しい発見をすることを楽しみにしています。		
オフィス・アワー	実習、講義、会議、研究活動などで不在のとき以外は、学生さんといつでも話せるようにお待ちしています。面談予約して下さいませれば確実です。		

## 平成25年度 シラバス

科目名	小児看護学概論		担当者	加固正子		学科	看護学科		開講期	前期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位		学年	2学年		曜日		
	教職に関する科目	(必修)		(時間)	(15時間)		時限				
授業の概要	小児の看護師の役割、小児の特徴、子どもの権利や今日の健康問題、子どもが健やかに成長・発達するための看護方法の基礎を教授する。										
学習目的	小児看護方法を学習するための基礎知識として、子どもの成長・発達にそって子どもの特徴や健康問題を理解する。										
学習目標	1. 小児看護について、歴史的・社会的側面から理解する。 2. 子どもの権利を擁護する視点から、小児の健やかな成長・発達について思考する。 3. 小児期の成長と発達にそって、主な健康問題とその予防法を学ぶ。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	小児の特徴と小児看護 1・2章		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児看護学の目標と課題</li> <li>・小児の健康課題と保健統計</li> <li>・子どもの健康促進</li> </ul>						講義		
第2回	小児の特徴と小児看護 1・2・5章		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児看護の場と小児看護の役割</li> <li>・小児看護の課題と展望</li> <li>・小児医療の変遷と課題</li> </ul>						講義		
第3回	子どもの最善の利益にかなう医療・看護 第3章		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療における子どもと自己決定、教育を受ける権利など</li> <li>・小児医療の場と子どもの権利</li> <li>・児童虐待と子どもの権利(虐待の認識から防止対策まで)</li> </ul>						講義		
第4回	小児の成長と発達段階 第5章、第6章Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長・発達の減速と影響因子</li> <li>・発達評価と家庭環境アセスメント</li> <li>・成長に伴う機能的発達</li> </ul>						講義 <小テスト1>		
第5回	小児の生活を支える成長と機能の発達 第6章Ⅳ、第4章		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の生活行動の変化と日常生活支援 動く、眠る、食べる</li> </ul>						講義		
第6回	小児の発達と日常生活支援 第6章Ⅴ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の生活行動の変化と日常生活支援 排泄する、身だしなみを整える</li> </ul>						講義		
第7回	小児の発達と日常生活支援 第6Ⅴ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の生活行動の変化と日常生活支援 見る・聞く・話す、感じる・考える</li> </ul>						講義		
第8回	小児の発達と日常生活支援 第6章Ⅴ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の生活行動の変化と日常生活支援 人とかかわる、遊ぶ・学ぶ、性を生きる</li> <li>・小児各期の生活の特徴と主な健康問題</li> </ul>						講義 <小テスト2>		
教科書	松尾宣武・濱中喜代編(2012)：新看護学全書 小児看護学1、小児看護学概論・小児保健、メジカルフレンド社 (2,415円)										
参考書	授業の中で資料を配布する。										
成績評価	単位認定 60 点以上 小テスト2回で20点+最終テスト40点+体験レポート40点とし、総合的に評価する。										
履修のポイント	自分の子どもの時の気持ちを振り返り、心身ともに急激に成育する子どもを理解すること。										
オフィス・アワー	水曜日 16:40～										

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	成人看護学概論		<b>担当者</b>	粕谷恵美子	<b>学科</b>	看護	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	2学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	15時間			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	成人期にある人々の成長発達の特徴について理解し、成人の生活と健康に関する基本的知識を基盤にして、成人期のライフスタイルや環境から生じる健康問題と健康レベルに応じた看護のアプローチ方法を学ぶ。							
<b>学習目的</b>	成人期の特徴を踏まえ、家庭や職場・地域社会で様々な役割を持つ人々の日常生活及び健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について考える							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人々の成長・発達過程を理解し成人各期の特徴を説明できる。</li> <li>2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連付けて説明できる。</li> <li>3. 成人期の健康や健康障害に伴う人々の心身の反応を理解し、看護の特徴を説明できる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	成人期にある人々の特徴	成人期にある対象の身体・心理・社会的特徴						
第2回	成人の生活環境と健康状態	ライフスタイルと健康問題						
第3回	成人の生活と健康	保健対策、医療対策、福祉対策						
第4回	成人の看護アプローチの基本	健康教育、患者と看護師の人間関係、マネジメント、家族支援						
第5回	急性期にある人々の看護	急激な健康破綻をきたした人への看護と家族への援助 救急医療と救急看護						
第6回	回復期にある人々の看護	障害を持つ人への看護、リハビリテーションの概念						
第7回	慢性期にある人々の看護	慢性期にある患者のセルフケアとセルフマネジメント						
第8回	終末期にある人々の看護	終末期にある人の看護と家族への援助						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ [成人看護学1] 「成人看護学総論」 医学書院							
<b>参考書</b>	講義の中で適宜紹介します							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、レポート他演習など20%を総合して評価します。							
<b>履修のポイント</b>	既習の看護学原論の復習。日常生活の中で、医療や健康問題に関する情報を意識しましょう							
<b>オフィス・アワー</b>								

# 平成25年度 シラバス

科目名	成人看護方法 I (慢性疾患・がん看護方法)		担当者	佐藤栄子・林かおり	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	慢性疾患・がんとともに生きる人々の特徴を理解し、対象者の生活の調整や再構築、セルフケアを支援する看護援助方法について学ぶ。講義終盤ではグループで事例学習を実施することにより、慢性疾患やがんとともに生きる人々への援助に対する理解を深める。							
学習目的	様々な慢性疾患やがんによって生じる健康問題を理解し、成人期の特性や健康問題の性質を考慮した看護援助方法について学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 回復過程の違いによる健康問題や看護援助の特徴を理解する。</li> <li>2. 慢性疾患やがんに起因する健康問題が対象者の生活に与える影響や影響の拡大について理解する。</li> <li>3. 慢性疾患やがんに起因する健康問題を抱える対象者への援助方法を理解する。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	慢性期看護概論①		慢性期にある人への特徴と理解, 慢性期にある人への看護の役割			佐藤栄子		
第2回	慢性期看護概論②		同上			佐藤栄子		
第3回	がんと共に生きる対象者への看護①		がんと共に生きる対象者の特徴と理解, 看護援助の考え方			佐藤栄子		
第4回	がんと共に生きる対象者への看護②		がんと共に生きる対象者への具体的援助方法			佐藤栄子		
第5回	栄養摂取・消化機能障害をもつ対象者への看護①		栄養摂取・消化機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法			佐藤栄子		
第6回	栄養摂取・消化機能障害をもつ対象者への看護②		同上			佐藤栄子		
第7回	呼吸機能障害をもつ対象者への看護①		呼吸機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法			佐藤栄子		
第8回	呼吸機能障害をもつ対象者への看護②		同上			佐藤栄子		
第9回	循環機能障害をもつ対象者への看護①		循環機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法			佐藤栄子		
第10回	循環機能障害をもつ対象者への看護②		同上			佐藤栄子		
第11回	代謝機能障害をもつ対象者への看護①		代謝障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法			佐藤栄子		
第12回	代謝機能障害をもつ対象者への看護②		同上			佐藤栄子		
第13回	運動機能障害をもつ対象者への看護①		運動機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法			佐藤栄子		
第14回	運動機能障害をもつ対象者への看護②		同上			佐藤栄子		
第15回	技術演習		慢性期にある人への援助に必要な技術演習			佐藤栄子		
第16回	技術演習		同上			佐藤栄子		
第17回	脳・神経障害をもつ対象者への看護①		脳・神経機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法			林かおり		
第18回	脳・神経障害をもつ対象者への看護②		同上			林かおり		

## 平成25年度 シラバス

第19回	慢性期にある対象者への看護過程演習①	看護過程演習オリエンテーション	佐藤栄子
第20回	慢性期にある対象者への看護過程演習②	病態関連図作成	佐藤栄子
第21回	内部環境調節障害をもつ対象者への看護①	内部環境調節機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法	佐藤栄子
第22回	慢性期にある対象者への看護過程演習③	関連図作成	佐藤栄子
第23回	内部環境調節障害をもつ対象者への看護②	内部環境調節機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法	佐藤栄子
第24回	慢性期にある対象者への看護過程演習④	アセスメント、看護問題抽出、看護計画立案	佐藤栄子
第25回	生体防御機能障害をもつ対象者への看護	生体防御機能障害をもつ対象者に必要なアセスメントと具体的援助方法	佐藤栄子
第26回	慢性期にある対象者への看護過程演習⑤	看護計画立案	佐藤栄子
第27回	患者教育	Adult learning とは何か, 具体的な患者教育方法について	佐藤栄子
第28回	慢性期にある対象者への看護過程演習⑥	看護計画立案 発表準備	佐藤栄子
第29回	慢性期にある対象者への看護過程演習⑦	各グループの学習成果発表	佐藤栄子
第30回	慢性期にある対象者への看護過程演習⑧	各グループの学習成果発表	佐藤栄子
教科書	成人看護学慢性期看護 編集:鈴木久美、野沢明子、森一恵 出版:南江堂 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 編集:日本糖尿病協会 出版:日本糖尿病協会・文光堂		
参考書	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験や課題、演習内容から総合的に評価する。		
履修のポイント	・この授業では専門基礎科目で学んだ人体のしくみや疾病に関する基礎知識が必須となります。それらを充分理解し、授業に臨んでください。		
オフィス・アワー	事前にメールでご連絡下さい。E-mail:sato-e@kiryu-u.ac.jp		

# 平成25年度 シラバス

科目名	成人看護方法Ⅱ		担当者	林かおり・粕谷恵美子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
<b>授業の概要</b>	周手術期にある対象の術前・術中・術後・回復期の看護に必要な知識を学ぶ。							
<b>学習目的</b>	周手術期にある対象を理解し、術前・術中・術後・回復期それぞれの看護援助方法について理解する。							
<b>学習目標</b>	1. 周手術期の各時期における対象の状態を学び、必要な看護援助方法を理解することができる。 2. 術式による特徴的な看護方法について理解することができる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	周手術期看護論	周手術期の考え方、手術療法の変遷と現状						
第2回	周手術期看護の特徴と周手術期にある対象への看護	概念や理論から考える周手術期看護の援助方法						
第3回	周手術期過程に応じた看護①	手術前の看護、手術中・手術後の看護						
第4回	周手術期過程に応じた看護②	麻酔と看護、手術後の全身管理の方法						
第5回	周手術期過程に応じた看護③	術後合併症とその予防						
第6回	周手術期過程に応じた看護④	回復期の看護、術後の継続看護						
第7回	周手術期にある対象の看護論①	開腹術（上部消化管）を受ける対象の看護						
第8回	周手術期にある対象の看護論②	開腹術（下部消化管）を受ける対象の看護						
第9回	周手術期にある対象の看護論③	腹腔鏡下手術を受ける対象の看護						
第10回	周手術期にある対象の看護論④	その他の消化管手術を受ける対象の看護						
第11回	周手術期にある対象の看護論⑤	運動器の手術を受ける対象の看護						
第12回	周手術期にある対象の看護論⑥	運動器の手術を受ける対象の看護						
第13回	周手術期にある対象の看護論⑦	開頭術を受ける対象の看護						
第14回	周手術期にある対象の看護論⑧	開頭術を受ける対象の看護						
第15回	対象の看護展開：演習①	Aクラス：事例による看護展開/Bクラス：開心術を受ける対象の看護						
第16回	対象の看護展開：演習①	Aクラス：事例による看護展開/Bクラス：開胸術を受ける対象の看護						
第17回	対象の看護展開：演習②	Bクラス：事例による看護展開/Aクラス：開心術を受ける対象の看護						
第18回	対象の看護展開：演習②	Bクラス：事例による看護展開/Aクラス：開胸術を受ける対象の看護						

## 平成25年度 シラバス

第19回	対象の看護展開：演習③	A・Bクラス合同：事例による看護展開	
第20回	周手術期にある対象の看護論⑨	腎・泌尿器の手術を受ける対象の看護	
第21回	周手術期にある対象の看護論⑩	腎・泌尿器の手術を受ける対象の看護	
第22回	周手術期にある対象の看護論⑪	感覚器の手術を受ける対象の看護	
第23回	周手術期にある対象の看護論⑫	感覚器の手術を受ける対象の看護	
第24回	周手術期にある対象の看護論⑬	女性生殖器の手術を受ける対象者の看護	
第25回	周手術期にある対象の看護論⑭	内分泌器の手術を受ける対象者の看護	
第26回	周手術期にある対象の看護論⑮	皮膚の手術を受ける対象者の看護	
第27回	周手術期にある対象の看護論⑯	口腔・耳鼻咽喉部・頭頸部の手術を受ける対象の看護	
第28回	周手術期各部門の看護①	日帰り手術を受ける対象の看護/外来での手術	
第29回	周手術期各部門の看護②	ICUの役割と看護、救急時の看護と急性期看護	
第30回	周手術期各部門の看護③	実際の手術室看護について（外来講師による講義）	
教科書	「周手術期看護論」出版：ヌーベルヒロカワ		
参考書	周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護：医歯薬出版株式会社、系統看護学講座 専門分野 各科：医学書院		
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、レポート等課題20%を総合して評価する。		
履修のポイント	主体的・積極的に参加すること。1、2年次に学習した解剖生理学、疾病論の復習をすること。		
オフィス・アワー			

## 平成25年度 シラバス

科目名	セルフケア論		担当者	佐藤栄子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	対象者が疾病や障害を持ちながらセルフケアを遂行するというセルフケアの概念と、それに関連する理論の理解を深める。さらに対象者がセルフケアを遂行するための看護の役割や看護援助方法について学ぶ。授業は主に講義形式で行うが、小課題や演習、さらにレポート作成などを含めて行う。							
学習目的	セルフケアの概念を理解し、セルフケアを促進する看護援助の基盤となる考え方と援助方法を学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セルフケアの概念を理解する。</li> <li>2. セルフケアに関連する理論を理解する。</li> <li>3. セルフケアを促進する看護援助の基盤となる考え方、援助方法の理解を深める。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション	セルフケアの概念と成人期の人々のセルフケアに対する看護の役割						
第2回	オレムのセルフケアモデル①	オレムのセルフケアモデルの概要						
第3回	オレムのセルフケアモデル②	オレムの看護モデルを用いた看護過程の展開						
第4回	行動変容に関連する諸理論①	行動変容に関連する理論の歴史的発展と概要						
第5回	行動変容に関連する諸理論②	同上						
第6回	セルフケア援助方法①	セルフケアを促進する援助方法の概要						
第7回	セルフケア援助方法②	演習						
第8回	セルフケア援助方法③	コンプライアンス、アドヒアランスそしてエンパワメントへ						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	指定なし							
参考書	講義の中で適宜紹介する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 レポートや課題などで総合的に評価する。定期試験は実施しない。							
履修のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケアの概念、援助の際の基本的な考え方を意欲的に学んでもらいたいと思います。</li> <li>・演習日は講義の進行上、遅刻すると参加することが出来ません。ご注意ください。</li> </ul>							
オフィス・アワー	事前にメールでご連絡下さい。E-mail:sato-e@kiryu-u.ac.jp							

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	精神看護学概論		<b>担当者</b>	田邊要補	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	2学年	<b>曜日</b>	
	教職に関する科目	必修	<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	心の健康問題についての理解を深め、現代社会における精神保健・医療・福祉の活動とあり方を考える。また、精神保健福祉制度を理解し、精神看護の機能と役割を学習し、精神障がい者の人権について学ぶ。							
<b>学習目的</b>	精神看護の機能と役割について学び、人を援助するための基本について理解する。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学の基本的な考え方を理解する。</li> <li>2. 精神の健康と障害について理解する。</li> <li>3. 人間の心のはたらきについて理解する。</li> <li>4. 精神障害の治療の歴史及び法制度について理解する。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	精神看護学について	精神看護学とは 精神看護学の基本的な考え方						
第2回	精神の健康と障害	精神の健康とは 精神障害のとらえ方						
第3回	人間の心のはたらき 1	人間の心の諸活動 心のしくみと人格の発達①						
第4回	人間の心のはたらき 2	心のしくみと人格の発達②						
第5回	人間の心のはたらき 3	危機介入とストレス理論						
第6回	関係のなかの人間	全体としての家族 人間と集団						
第7回	社会のなかの精神障害 1	精神障害と治療の歴史						
第8回	社会のなかの精神障害 2	精神障害と法制度						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験90%、レポート10%、授業参加度							
<b>履修のポイント</b>	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。							
<b>オフィス・アワー</b>								

## 平成25年度 シラバス

科目名	精神看護方法		担当者	田邊要補	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日		
	教職に関する科目	必修	(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	精神障がい者の回復過程を学習するなかで、精神看護に必要な知識と技術を学ぶ。さらに、地域での生活を支えるソーシャルサポートについて学ぶ。								
学習目的	様々の学習を通し、患者・当事者の思いを知り、真のパートナーシップを築くには、どうしたらよいかを考える。								
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアの人間関係について理解する。</li> <li>2. 入院治療と看護の展開方法について理解する。</li> <li>3. 精神科における身体ケアについて理解する。</li> <li>4. 地域における精神看護について理解する。</li> <li>5. 精神科以外での精神看護について理解する。</li> <li>6. 事例を通して看護の展開方法を理解する。</li> </ol>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備 考		
第1回	ケアの人間関係 1	ケアの原則 患者－看護師関係でおこること							
第2回	ケアの人間関係 2	関係をアセスメントする：プロセスレコードの活用							
第3回	精神科における看護の役割 1	入院治療の意味を理解する							
第4回	精神科における看護の役割 2	治療的環境をつくる							
第5回	精神科における看護の役割 3	安全をまもる 緊急事態に対処する①							
第6回	精神科における看護の役割 4	緊急事態に対処する② 回復を助ける							
第7回	身体をケアする 1	精神科の治療と身体のケア 身体合併症							
第8回	身体をケアする 2	精神科における身体のケアの実際 心的外傷をもつ患者への身体からはじまるケア							
第9回	地域における精神看護	地域で生活するための原則 地域での看護の実際							
第10回	精神科以外での精神看護 1	身体疾患と精神看護 看護カウンセリング							
第11回	精神科以外での精神看護 2	リエゾン精神看護 コミュニティにおける精神保健・精神看護：学校、職場							
第12回	精神科の症状と看護	幻覚・妄想患者の看護、自閉状態にある患者の看護 他							
第13回	統合失調症をもつ人の看護 1	事例展開(演習) 1							
第14回	統合失調症をもつ人の看護 2	事例展開(演習) 2							
第15回	地域での支援と生活	伊勢崎地域活動支援センターの概要 当事者(精神に障がいのあるかた)の体験談話						高山千恵美	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]								
参考書									
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、課題20%、授業参加度								
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。								
オフィス・アワー									

## 平成25年度 シラバス

科目名	高齢期看護学概論		担当者	小此木久美子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2年生	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	<p>高齢期は加齢に伴う身体の形態変化や心身の機能の低下がみられる時期である。授業では高齢期にある人の心身の特徴、健康生活及び健康障害について、その回復過程を含めて生活の視点から理解する。高齢者の健康問題は、その人のその後の発達を防げるだけでなく、その家族に及ぼす影響についても理解する。さらに高齢者を取り巻く社会環境の変化の状況を学び、問題とその対策について学習する。</p>							
学習目的	<p>高齢期の意味や加齢による身体的、心理・社会的変化を理解し、高齢社会の現状、高齢者のライフスタイルやニーズを知り、高齢期看護の目標・役割を学ぶ。</p>							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期看護学の概要を理解できる。</li> <li>2. 高齢期看護の対象を身体的、心理・社会的特徴とその生活背景から理解できる。</li> <li>3. 高齢期社会の現状と高齢期看護の目的と役割が理解できる。</li> <li>4. 高齢期の発達課題を知り、高齢期看護の目的と役割が理解できる。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	老いるということ。老いを生きるといこと。	・未知なる老い。老いのイメージ。加齢と老化。・身体的・心理的・社会的側面の変化を学習する						
第2回	高齢社会の統計的輪郭	・我が国の高齢化の現状の理解。高齢者の世帯・健康状態・くらしの実状と課題の整理。						
第3回	高齢社会における保健療福祉の動向	・高齢者とソーシャルサポート。保健医療福祉システムの構築。介護保険制度の整備状況と課題を整理する。高齢者医療の仕組みを学ぶ。						
第4回	高齢者の生活を支える職種と活動の多様化	・高齢者の生活と健康を支える多様な職種。看護職の拡大と専門家について学習する。						
第5回	高齢社会における権利擁護	・高齢者に対する烙印と差別。高齢者の権利擁護に深く関わる看護職としての学ぶ。高齢者虐待のとりえ方から虐待の実態を認識する。						
第6回	高齢期看護の成り立ち及び看護	・高齢期看護の概要。定義の変遷から学ぶ。看護実践の特徴を理解する。看護に携わる責務について学習する。						
第7回	地域資源を活用した看護の展開	・高齢期看護の4つ要素を学ぶ。看護実践の特徴を学び高齢者の自己決定を促進し生活機能を回復出来る支援について学習する。						
第8回	高齢者の地域活動の実際から学ぶ。	・高齢期の社会活動の実状を各種資料から学び地域の支え合いの仕組みの理解を深める。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	北川公子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 発行2013 02月第7版 定価2730円							
参考書	編集 山田律子／井出 訓 生活機能から見た老年看護課程 発行2008年09月 定価3780円							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記テスト80%・課題レポート20%							
履修のポイント	講義終了後小テストを行う。テキストと資料を基に行うので予習復習をしっかりと。学習ノートを整理すること。							
オフィス・アワー	在室時対応							

# 平成25年度 シラバス

科目名	高齢期看護方法		担当者	藤川君江	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	高齢期を生きる人々の持つ多様な特性の理解を深め、高齢者を理解していくための基礎的能力を学習する。高齢期にある人の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避、健康な発達を支援するための方法を学習する。この過程を通して効果的な看護を展開するための知識・技術を活用することの重要性を学習する。							
学習目的	高齢期にある人の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期の人の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する。</li> <li>2. 高齢期の人の健康問題の解決・緩和、回避に向けた支援方法を理解する。</li> <li>3. 高齢期の人の健康問題を解決・緩和、回避するために必要な看護技術を実施する。</li> <li>4. 臨地実習で遭遇する頻度の高い事例を通して、個別に応じた看護過程の必要性を理解する。</li> <li>5. 高齢期を生きる人々の健康状態と権利擁護について説明できる。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	高齢者のアセスメント①		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のアセスメントにおける特徴</li> <li>1) 身体に加齢変化とアセスメント</li> <li>2) 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント</li> </ol>					
第2回	高齢者のアセスメント②		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に起こりやすいコミュニケーションと看護</li> <li>1) 老人性難聴 2) 失語症 3) 高音障害</li> </ol>					
第3回	治療を必要とする高齢者の看護①		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来受診・入院する高齢者への看護</li> <li>1) 検査・治療を受ける高齢者の特徴</li> </ol>					
第4回	治療を必要とする高齢者の看護②		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検査・治療を受ける高齢者への看護ケア</li> <li>1) 高齢者の検査・治療過程における看護支援</li> </ol>					
第5回	治療を必要とする高齢者の看護③		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法と看護ケア</li> <li>1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前、術後の看護マネジメント</li> </ol>					
第6回	治療を必要とする高齢者の看護④		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の術前・術後に起こりやすいリスクと問題</li> <li>1) 肺合併症、せん妄 他</li> </ol>					
第7回	治療を必要とする高齢者の看護⑤		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患をもつ高齢者への看護ケア 脱水</li> <li>2. 意識障害のある高齢者のアセスメントと看護</li> <li>1) 意識レベルの観察と看護ケア</li> </ol>					
第8回	治療を必要とする高齢者の看護⑥		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患をもつ高齢者への看護ケア</li> <li>1) 脳卒中、心不全、パーキンソン病、骨粗鬆症、骨折</li> </ol>					
第9回	治療を必要とする高齢者の看護⑦		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法を受ける高齢者への看護</li> <li>1) 薬物療法の身体への影響と看護</li> </ol>					
第10回	治療を必要とする高齢者の看護⑧		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法を受ける高齢者への看護</li> <li>1) 薬物療法の有害反応の観察と看護ケア</li> </ol>					
第11回	治療を必要とする高齢者の看護⑨		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知機能の障害に対する看護ケア</li> <li>1) うつ、せん妄、認知症</li> </ol>					
第12回	治療を必要とする高齢者の看護⑩		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期における看護</li> <li>1) 高齢者の死 2) 終末期ケアとは</li> </ol>					
第13回	地域資源を活用した看護の展開		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅高齢者への看護</li> <li>2. 保健医療福祉施設における看護</li> </ol>					
第14回	日常生活動作①		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食・嚥下障害のある高齢者のアセスメントと看護ケア</li> <li>1) 摂食・嚥下機能障害の看護ケア</li> </ol>					
第15回	日常生活動作②		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排泄障害のある高齢者のアセスメントと看護ケア</li> </ol>					
第16回	日常生活援助①		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 廃用症候群の予防と看護ケア</li> <li>1) 廃用性症候群とは 2) 高齢者のリハビリテーション 3) 褥瘡</li> </ol>					
第17回	日常生活援助②		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 片麻痺のある高齢者への食事援助技術・口腔ケア・義歯のケア</li> </ol>				演習	
第18回	日常生活援助③		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 片麻痺のある高齢者への食事援助技術・口腔ケア・義歯のケア</li> </ol>				演習	

## 平成25年度 シラバス

<b>第19回</b>	日常生活援助④	1. 寝たきり高齢者の排泄の援助技術	演習
<b>第20回</b>	日常生活援助⑤	1. 寝たきり高齢者の排泄の援助技術	演習
<b>第21回</b>	感染リスクと管理	1. 感染症が高齢者にもたらす問題 1) インフルエンザ、肺炎、感染性胃腸炎	
<b>第22回</b>	高齢者のリスクマネジメント	1. 高齢者の医療安全 2. 高齢者と災害	
<b>第23回</b>	看護過程の展開①	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) 事例展開と文献検索 2) 情報収集	
<b>第24回</b>	看護過程の展開②	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) アセスメント 2) 看護問題の抽出	グループワーク
<b>第25回</b>	看護過程の展開③	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) アセスメント 2) 看護問題の抽出	グループワーク
<b>第26回</b>	看護過程の展開④	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) 関連図の作成	グループワーク
<b>第27回</b>	看護過程の展開⑤	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) 関連図の作成	グループワーク
<b>第28回</b>	看護過程の展開⑥	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) 看護計画立案	グループワーク
<b>第29回</b>	看護過程の展開⑦	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) 看護計画立案	グループワーク
<b>第30回</b>	看護過程の展開⑧	1. 高齢期に多い疾患の看護過程 1) 事例の看護計画発表、まとめ	グループワーク
<b>教科書</b>	1. 北川公子他編集：系統看護学講座、専門分野Ⅱ老年看護学、医学書院、2013年 2. 泉キヨ子他編集：根拠がわかる老年看護技術、メヂカルフレンド社、2013年		
<b>参考書</b>	1. 佐々木英忠他編集：系統看護学講座、老年看護 病態・疾患論、医学書院、2012年		
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 課題レポート（10%）、筆記試験（90%）		
<b>履修のポイント</b>	1. 講義終了後に小テストを随時行う。 2. 復習を行い、学習ノートを整理事ること。		
<b>オフィス・アワー</b>			

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	高齢期看護学実習 I		<b>担当者</b>	藤川君江	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	2学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(45時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	通所介護施設を利用する高齢者は、疾患があり治療を受けながら介護保険等を利用して、在宅で生活を送っている。このような高齢者と接することは、身体的状態・家庭環境・社会的環境など（客観的QOL）と高齢者の主観的満足感・生きがいなど（主観的QOL）の両面を把握する必要がある。また高齢者の生きがい、個性、エンパワメントを知ることで、医療倫理の原則で最も重要な患者の自己決定権（個の尊厳、人権擁護）の重要性を理解し、看護の焦点が目標志向型思考の看護を展開する能力を身につける。							
<b>学習目的</b>	通所介護施設を利用する高齢期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、高齢者を支えるケアシステム、社会資源の活用について学ぶ。また、対象者の生活史を知ること、生きてきた社会的背景と価値観の多様性を学ぶ。リスクマネジメントの視点と高齢者に対する尊厳という倫理面での配慮をもち、実習を通して学ぶ。							
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の老化過程の特徴を理解し、包括的ヘルスアセスメントを行い、個性の理解を深めると共に、生活史を理解し多様な価値観を持つ生活者であることを学ぶことができる</li> <li>2. 高齢者と家族を取り巻く地域の保健・医療・福祉サービスが円滑に連携を図るために、多職種連携について学ぶことができる</li> <li>3. 講義・演習で学んだ理論・知識・技術・態度について、実践を通して学ぶことができる</li> <li>4. 介護保険制度と高齢者への社会支援を学ぶことができる</li> <li>5. 高齢者の尊厳や倫理的問題の発生や予防を当事者や家族および関係者間の調整的役割について学ぶことができる</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	学内学習	オリエンテーション・事前課題の確認を受ける カンファレンスで、メンバーシップ、リーダーシップの役割を学ぶ自己の実習課題を明確にする。						
第2回	臨地実習 通所介護施設	当日の担当高齢者に、実習協力を依頼をする アセスメント（観察法、ライフインタビュー、フィジカルアセスメント）						
第3回	臨地実習 通所介護施設	指導者とともに、高齢者の安全性を確保し、看護ケアを行う。 高齢者とコミュニケーションができる						
第4回	臨地実習 通所介護施設	高齢者を尊重した態度で接することができる。 アクティビティケアの準備・参加する。						
第5回	学習実習	実習を振り返り、学習目標に沿ってレポートを提出する。自己の実習課題の成果を発表する。						
<b>教科書</b>	特に指定しない							
<b>参考書</b>	随時紹介する							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 事前学習、実習内容、記録物、提出物などを総合的に評価する。							
<b>履修のポイント</b>	高齢者の生きてきた時代背景の理解、コミュニケーション、生活機能、自己決定（尊厳・尊重）支援の実践							
<b>オフィス・アワー</b>	実習最終日に評価面接を実施します。							

## 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	在宅看護学概論		<b>担当者</b>	木部 美知子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	1単位	<b>学年</b>	2学年	<b>曜日</b>	
			<b>(時間)</b>	(15時間)			<b>時限</b>	
<b>授業の概要</b>	高齢化社会や疾病構造の変化、療養者のQOLの追求と療養生活についての自己決定、家族機能の変化などを背景にして在宅看護の必要性は高まっている。在宅療養者と介護する家族の特徴を捉え、継続看護や在宅での生活支援の必要性や在宅ケアシステムや社会資源の活用およびマネジメント機能について学ぶ。							
<b>学習目的</b>	地域で療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々とその家族の特性、在宅看護意義を理解し、在宅における看護活動に必要な知識習得する。さらに、在宅ケアシステム、在宅ケアチームにおける看護職の役割及び訪問看護活動の特徴について理解する。							
<b>学習目標</b>	1. 在宅看護における社会背景及び在宅看護の意義が理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の対象とその特徴が理解できる。 3. 在宅看護に関連する諸制度や関連機関を理解できる。 4. 訪問看護ステーションの役割・機能、訪問看護活動の特徴について理解する。 5. 在宅看護と安全、看護の継続性について説明できる。 6. 在宅療養者とその家族の権利保障について理解できる。							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	在宅看護の目的	在宅看護における社会的背景、在宅看護の役割と機能						
第2回	在宅看護のと特徴	在宅看護の現状、在宅看護の意義・特性						
第3回	在宅看護の対象	在宅療養者および家族への支援、在宅療養者のQOL						
第4回	訪問看護の仕組み	在宅看護における法制度、訪問看護ステーションと関連機関、関連職種						
第5回	在宅看護と生活支援	家族システムと家族の危機、看護の継続性、退院支援						
第6回	在宅看護の展開	在宅看護過程展開のポイント、社会資源						
第7回	在宅看護と安全	感染防止、医療事故防止、災害時の対応講						
第8回	療養者およびその家族の権利保障	個人情報保護、自己決定権、後見制度講義						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 定価 2,520円 (税込)							
<b>参考書</b>	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社 定価 4,935円 (税込)							
	木下 由美子編著： Essentials在宅看護学 医歯薬出版 定価 2,730円 (税込)							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上・レポート20%以上・課題20%以上							
<b>履修のポイント</b>	要介護高齢者の介護に関する社会的問題や在宅医療の必要な療養者の生活などの新聞ニュースも自分から積極的に取り込んで、主体的に学習すること。講義は、テキストと資料を基に行うので予習復習をしっかりと行う。 レポート課題あり。							
<b>オフィス・アワー</b>	10号館1F 高齢期在宅看護学研究室							

## 平成25年度 シラバス

科目名	在宅看護方法		担当者	木部 美知子		学科	看護学科		開講期	後期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位		学年	2学年		曜日		
			(時間)	(30時間)					時限		
授業の概要	在宅療養者と家族への具体的な日常生活援助方法や医療処置を伴う看護援助方法、障害者、高齢者、終末期患者など対象別の在宅看護の特徴を学ぶ。さらに在宅看護の事例展開をとおし社会資源の活用や他職種との連携在宅療養者および家族に対する看護実践のために必要な知識・技術について学習する。										
学習目的	在宅・訪問看護実践のために必要な基礎的知識・技術を養う。										
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護における在宅看護過程の基本が理解できる。</li> <li>2. 在宅療養者の日常生活援助について理解できる。</li> <li>3. 在宅療養者の状態別看護について理解できる。</li> <li>4. 在宅における医療管理を必要とする看護を理解できる。</li> </ol>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	在宅看護の実際		1) 在宅で看護の展開 2) 在宅で求められる技術の応用 3) 在宅療養の時期の特徴と看護介入：導入期(退院前)～終了期								
第2回	在宅療養者の日常生活援助		1) 在宅看護援助の基本 2) 具体的援助内容：環境整備、食事、排泄、清潔、服薬管理 3) リハビリテーションの援助内容								
第3回	療養者の症状・状態別の看護		脳血管疾患(寝たきり老人)／難病患者／認知症患者								
第4回	療養者の症状・状態別の看護		感染症患者／在宅ターミナルケア／精神障害者								
第5回	特殊な技術をとまなう在宅看護		在宅酸素療法／在宅人工呼吸療法／CAPD療法／ストーマケア								
第6回	特殊な技術をとまなう在宅看護		褥創ケア／経管栄養／在宅中心静脈栄養(HPN) 吸引(鼻腔・口腔・気管内吸引)／気管切開口ケア／疼痛コントロール								
第7回	在宅看護過程		事例展開①②						GW		
第8回	在宅看護過程		事例展開③④						GW		
第9回	在宅看護過程		事例展開⑤⑥						GW		
第10回	在宅看護過程		事例展開⑦⑧						GW		
第11回	在宅看護過程		事例展開⑦⑧						GW		
第12回	在宅看護過程		事例展開						演習・VTR撮影		
第13回	在宅看護過程		事例展開						演習・VTR撮影		
第14回	在宅看護過程		在宅看護過程発表						演習(評価)		
第15回	在宅看護過程 まとめ		在宅看護過程発表 まとめ						演習(評価)		
教科書	秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 定価 2,520円 (税込)										
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社 定価 4,935円 (税込)										
	木下 由美子編著： Essentials在宅看護学 医歯薬出版 定価 2,730円 (税込)										
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上・レポート20%以上・事例展開記録20%以上										
履修のポイント	協調性を持ってグループワークに積極的に取り組み、主体的に学習すること。講義はテキストと資料を基に行うので予習復習をしっかりと行う。課題レポート、事例展開記録の提出あり。										
オフィス・アワー	10号館1F 高齢期在宅看護学研究室										

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	公衆衛生看護学概論		<b>担当者</b>	小此木久美子	<b>学科</b>	看護学科	<b>開講期</b>	前期	
<b>区分</b>	専門科目	必修	<b>単位</b>	2	<b>学年</b>	2	<b>曜日</b>		
	教職に関する科目	必修	<b>(時間)</b>	30					
<b>授業の概要</b>	公衆衛生看護の理念、歴史的背景や地域保健活動の変遷等を踏まえ、地域の健康水準向上のために公衆衛生看護の果たす役割や期待される能力について理解する。また、諸外国の公衆衛生看護活動や国際協力のあり方および多国籍化する地域住民への取り組みについて学習する。								
<b>学習目的</b>	地域を基盤とした公衆衛生看護の考え方に焦点を当て、対象の捉え方、住民の生活環境と健康課題、多様化する社会現象と健康課題に対応する保健師の役割について理解することを目的である。								
<b>学習目標</b>	1) 個人・家族・集団・コミュニティを対象とした看護領域であることを理解できる。 2) 地域で生活する人々の健康課題について考えることができる。 地域健康課題と保健計画について理解できる。 地域看護活動における集団的支援・個別的支援について説明できる。 地域看護活動における現状の問題を踏まえて今後の課題について説明できる							3) 4) 地 5) 地	
<b>授 業 計 画</b>									
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>		
第1回	ガイダンス 公衆衛生看護の理念と目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護の理念と目的</li> <li>・看護職の活動の場と特性（免許と資格、就業場所と就業人数）</li> </ul>							
第2回	保健師活動と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師活動と倫理的問題の特徴</li> <li>・情報社会における倫理と保護</li> </ul>							
第3回	公衆衛生看護の変遷①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域看護の歴史と公衆衛生看護の発展</li> </ul>							
第4回	公衆衛生看護の変遷②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師教育の歴史</li> <li>・諸外国の地域看護</li> </ul>							
第5回	公衆衛生看護活動の対象①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の日常生活と健康</li> <li>・家族と健康</li> <li>・健康行動の社会規範と文化と慣習</li> </ul>							
第6回	公衆衛生看護活動の対象②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、家族、集団、コミュニティの捉え方</li> </ul>							
第7回	環境と健康①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と健康課題</li> <li>・社会環境（都市と過疎地、産業）と健康課題</li> </ul>							
第8回	環境と健康②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化と健康課題</li> </ul>							
第9回	地域の保健医療福祉システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療圏と医療計画</li> <li>・地域における保健医療福祉施設</li> <li>・救急医療、へき地医療</li> </ul>							
第10回	公衆衛生看護の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法的基盤に基づく活動</li> <li>・保健所と市町村における保健師の活動</li> </ul>							
第11回	公衆衛生看護の発展①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所、市町村の今後</li> <li>・地方分権、市町村合併と公衆衛生看護</li> </ul>							
第12回	公衆衛生看護の発展②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の場の拡大</li> <li>・行政、学校、産業看護との連携</li> </ul>							
第13回	公衆衛生看護管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護管理の意義</li> <li>・地域の健康課題の施策化</li> <li>・保健事業計画策定と予算</li> </ul>							
第14回	公衆衛生看護の国際的視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多国籍化する住民の現状と今後の課題</li> </ul>							
第15回	国際協力と公衆衛生看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発途上国の健康課題</li> <li>・日本の国際協力</li> </ul>							
<b>教科書</b>	最新保健学講座 1 公衆衛生看護学概論（メヂカルフレンド社）								
<b>参考書</b>	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）保健師業務要覧（日本看護協会保健師職能委員会）								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 定期試験 60% レポート40%								
<b>履修のポイント</b>	公衆衛生看護は法律に基づくものが多いので、関連づけて覚えるといいでしょう。休まないで授業に出席してください。								
<b>オフィス・アワー</b>	研究室在室時に対応します。								

平成25年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ〔個人・家族・集団・組織への支援活動〕		担当者	高橋/小此木/鈴木	学科	看護	開講期	後期
区分	専門科目 演習	保健師選択 必修	単位 (時間)	2 60	学年	2	曜日 時限	火 4.5
授業の概要	公衆衛生看護活動の方法として、地域アセスメント、地域診断について学習し、地域の健康課題を把握し、適切な支援方法について学習する。 また個人・家族・集団・組織への具体的な支援方法として、健康診査、健康相談、家庭訪問、保健指導、健康教育などの、計画立案、実施、評価について学習する。							
学習目的	地域で生活する個人、家族、集団、組織を対象として、様々な健康レベルや地域の特性に応じた健康の保持増進と障害予防支援のため理論、知識、技法について理解することが目的である。							
学習目標	1) 公衆衛生看護活動の実践のための基本的な技術、方法について理解する。 2) 地域診断の意義と方法について説明できる。3) 地域特性を把握する視点を説明できる。 4) 地域診断の結果、地域の健康課題を保健事業につなげる意義が理解できる。 5) 地域特性に応じた看護過程の展開方法について理解する。6) 健康教育の意義を説明でき、実施計画の立案と評価ができる。 7) 保健師が行う家庭訪問において、対象者のアセスメント、訪問計画立案から評価まで説明できる。 8) 個別支援としての健康相談、保健指導について意義を説明できる。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	公衆衛生看護活動論ガイダンス	地域	・授業の進め方・コミュニティの捉え方・地域診断とは					
第2回	診断①コミュニティとは		・保健医療福祉関連の統計資料とその活用・地域把握の方法と実際				高橋	
第3回	地域診断②・既存資料の活用							
第4回	・地域把握の方法							
第5回	地域診断③	健	・収集した情報や資料から、地域の健康課題を抽出・課題に対する対応策					
第6回	康課題の明確化							
第7回	地域診断④	保健	・事業計画とは ・策定のプロセスと評価					
第8回	事業計画と保健師の役割							
第9回	コミュニティへの支援①		・健康教育とは・集団健康教育と保健師役割					
第10回								
第11回	コミュニティへの支援②		・健康教育の企画書と指導案の作成				鈴木	
第12回								
第13回	コミュニティへの支援③		・健康教育の実践					
第14回								
第15回	コミュニティへの支援④		・計画した健康教育の共有化（発表）				中間授業評価	
第16回								
第17回	集団・組織への支援①		・集団健診と検診のありかた ・事後のフォローアップ方法 ・ポピュレーションアプローチとは				小此木（中間テスト）	
第18回								
第19回	集団・組織への支援②		保健師がかかわる組織・グループとは ・組織化活動およびグループ支援と保健師の役割				小此木	
第20回								
第21回	個人・家族への支援①		・個人・家族への支援の目的と方法 ・家族アセスメントとは					
第22回								
第23回	個人・家族への支援②		・家庭訪問とは ・家庭訪問の法的根拠・家庭訪問による支援計画と方法、評価				高橋	
第24回								
第25回	個人・家族への支援③		・家庭訪問の実際（ロールプレイ）					
第26回								
第27回	個人・家族への支援④		・健康相談（保健指導）とは・健康相談（保健指導）の設定と支援方法、評価（ロールプレイ）				鈴木	
第28回								
第29回	公衆衛生看護に関する動向		・公衆衛生職員の養成と看護研究の動向				最終授業評価（まとめテスト）	
第30回								
教科書	最新保健学講座5 公衆衛生看護支援技術 最新保健学講座2 公衆衛生看護管理論 メジカルフレンド社							
参考書	・国民衛生の動向 ・コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第2版）医学書院							
成績評価	単位認定：60点以上 定期試験50% 記録（レポート含む）30% プレゼンテーション20%							
履修のポイント	保健師課程の科目です。グループワークが多いので、欠席しないで協調性をもって臨んでください。							
オフィス・アワー	月・木 その他、研究室在室時には対応します。							

平成25年度 シラバス

科目名	機能看護学概論		担当者	池田貴子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	木
			(時間)	(15時間)			時限	1
授業の概要	<p>専門職としての看護の機能について学ぶ。医療は社会のニーズの変化に対応してきたが、看護もそのひとつである。次の世代を担う学生達は、看護の変遷を学びながら看護の役割を学び、21世紀における看護のあり方について考える。 看護の専門職業人としての必要な知識・技術・態度について理解する。</p>							
学習目的	<p>専門職としての看護の役割りと機能がわかる。 看護の専門職業人としての必要な知識・技術・態度について理解する。</p>							
学習目標	<p>1. 看護が社会のニーズの変化に対応していることがわかる。 2. 専門職としての看護の機能を理解する。 3. 看護サービスの独自性を理解する。 4. 看護の機能の内容を理解する。 5. 看護の専門職業人としての必要な知識・技術・態度について理解する。</p>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	月日 時限	主 題	授 業 内 容			備 考		
第1回	4 / 11 (木) 1 限	看護の機能とは	専門職としての看護師					
第2回	4 / 15 (月) 2 限	看護の歴史	社会のニーズの変化に対応している看護の変遷			10-7教室		
第3回	4 / 18 (木) 1 限	看護における法的側面	看護職者の倫理、倫理綱領、アドボカシー					
第4回	4 / 24 (水) 3 限	看護サービスとは	サービスとしての看護			10-7教室 グループワーク		
第5回	4 / 24 (水) 4 限		発表			10-7教室 発表		
第6回	5 / 9 (木) 1 限	看護職者の教育とキャリア開発	看護教育制度、教育の形態、スペシャリスト、看護組織 小試験					
第7回	5 / 16 (木) 1 限	看護の役割	看護の目的、看護の定義、ケアリング					
第8回	5 / 23 (木) 1 限	看護の教育的機能と管理的機能	看護の対象と看護の方法					
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	<p>小山真理子編：看護学基礎テキスト第4巻看護の機能と方法，日本看護協会出版会，2012.</p>							
参考書	<p>松木光子編：基礎看護学看護学概論 看護とは・看護学とは[第4版]，ニューヴェルヒロカワ，H19. 川村佐和子他編：基礎看護学—看護学概論 ナーシンググラフィカ⑩，メディカ出版， 藤崎郁著者代表：系統看護学講座 専門分野Ⅰ看護学概論 基礎看護学[1]，医学書院，2009. 杉田暉道著者代表：系統看護学講座 別巻 看護史，医学書院，2005. 小玉香津子訳：看護の歴史，医学書院，1978. 叶谷由佳，木村憲洋編：イラスト図解看護のしくみ，日本実業出版社，2007.</p>							
成績評価	<p>単位認定 60点以上 客観試験 60%、授業および演習態度 10%、学生評価 10%、レポート 20%</p>							
履修のポイント	<p>医療人として自分自身をみつめ、動機付けになる機会となると思います。 覚える学習と考える学習です。</p>							
オフィス・アワー	<p>ikedata@kiryu-u.ac.jp</p>							

平成25年度 シラバス

科目名	機能看護学Ⅰ (看護教育とキャリア発達)		担当者	佐々木・/2年生担任	学科	看護学科	開講期	前後期
	専門科目	必修	単位	1	学年	2 学年	曜日	
			(時間)	15			時限	
授業の概要	看護教育制度を学び、看護基礎教育が社会の政治的、社会的、文化的要因により変化し確立されてきたことを理解する。また、看護の役割や機能も社会のニーズによって変化し、看護職は質の高い看護を提供するために生涯にわたり自己の能力を開発し社会に貢献することが求められる。ここでは、大学行事である継承式などを通して、看護の役割や機能を知り、自ら選択した看護職について深く考え、自己のライフステージにおける発達課題の達成と専門職業人として社会化していく過程を自覚する。							
学習目的	看護教育の起源、変遷を通して先人たちの活動から看護教育制度の現状を理解する。また、継承式の意義や式を企画・参加することによって、自ら選択した看護職について深く考える。							
学習目標	①看護の出来事に関与した人々の物事に関する考え方などを知り、看護教育制度の変遷を理解する。②看護に貢献した先人たちの活動を知ることにより、看護の価値を知る。③継承式を通して自ら選択した看護職について深く考える。							
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	看護教育の起源		看護教育に深く関わった人々の人生観、物事に対する考え方、当時の社会の動きを把握する			講義		
第2回	看護教育制度		看護教育制度の変遷			講義		
第3回	看護教育制度		看護教育制度と看護教育の現状			講義		
第4回	キャリア発達		自己の発達課題と専門職業人としての社会化についてグループワーク			講義・演習		
第5回	キャリア発達		看護の伝統的精神、職業的信念についてグループワーク			講義・演習		
第6回	継承式の準備		継承式を意味あるものにするための企画・準備			演習		
第7回	継承式の準備		継承式を意味あるものにするための企画・準備			演習		
第8回	継承式		継承式への参加を通して自ら選択した看護職について深く考える			演習		
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書								
参考書	アメリカの看護—専門職化への道—、日本看護—GHQによる改革、日本の看護の夜明け							
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート、継承式への参加							
履修のポイント	継承式に参加することが自己にとって意義あるよう学習する。							
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅰ（看護倫理）		担当者	倉林しのぶ/佐々木かほる	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	看護倫理の歴史的発展、今日の医療における看護職者の立場より担っていくべき倫理的責任、看護倫理アプローチとしての「原則の倫理」と「徳の倫理」の側面からの検討を通して看護専門職組織の社会的役割及び日本の文化の中での倫理的問題解決について探究する。							
学習目的	看護倫理の基礎的理解を図り、その基盤の上に看護倫理のアプローチを用いた事例検討、看護職の倫理綱領の理解、各国の看護における倫理、研究における倫理を通して、看護実践の中心に位置する倫理的に物事を考える道筋を見いだせるようにする。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護倫理の基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 看護倫理のアプローチについて理解する。</li> <li>3. 諸外国と日本における倫理について自分の意見を述べる。</li> <li>4. 学習資料などを通して看護の倫理を考え、意見を述べる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	倫理とはⅠ	「価値」について					倉林	
第2回	倫理とはⅡ	歴史的推移、倫理の基礎					倉林	
第3回	徳の倫理と原則の倫理Ⅰ	よい看護師とは					倉林	
第4回	徳の倫理と原則の倫理Ⅱ	倫理原則とその限界					倉林	
第5回	臨床倫理に関わる課題Ⅰ	インフォームド・コンセント、パターナリズム					倉林	
第6回	臨床倫理に関わる課題Ⅱ	事例検討（グループワークディスカッション）					倉林	
第7回	臨床倫理に関わる課題Ⅲ	守秘義務、ケアリング、アドボカシー（ビデオ使用）					倉林	
第8回	まとめ	事例検討（グループディスカッション）					倉林	
第9回	倫理的意思決定のステップと事例検討	倫理的ジレンマの医務を理解し、事例検討から倫理的ジレンマを解決する					佐々木	
第10回	倫理的意思決定のステップと事例検討	倫理的ジレンマの医務を理解し、事例検討から倫理的ジレンマを解決する					佐々木	
第11回	さまざまな看護活動と倫理（小児看護）	現場に生じている倫理問題についてその背景の理解と解決に向けてどの倫理原則をどのように適用できるか考える					佐々木	
第12回	さまざまな看護活動と倫理（末期ケア）	現場に生じている倫理問題についてその背景の理解と解決に向けてどの倫理原則をどのように適用できるか考える					佐々木	
第13回	さまざまな看護活動と倫理（地域看護）	現場に生じている倫理問題についてその背景の理解と解決に向けてどの倫理原則をどのように適用できるか考える					佐々木	
第14回	看護専門職組織の役割と倫理綱領	看護専門組織の役割、倫理綱領の意義を理解し、倫理綱領の意味を具体的場面と関連させる					佐々木	
第15回	まとめ	事例を通し倫理原則をまとめる					佐々木	
教科書	小西恵美子編：看護倫理、南江堂							
参考書	授業の中で事例をはじめ各資料を配布する							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中の発表状況、レポート、筆記試験							
履修のポイント	倫理は看護の行動を左右する。看護実践の中心に位置し、よりよい看護師となっていくことを助ける。							
オフィス・アワー	毎週月曜日の昼休みあるいは放課後							

# 平成25年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅲ（緩和ケア）		担当者	櫻井通恵	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	2学年	曜日	
							時限	
<b>授業の概要</b>	がん患者および家族への看護活動を理解するために以下の内容を学習する。 1. がんの病態および治療の概要 2. がん患者の精神的・身体的特徴と看護援助 3. がん患者と家族の特徴の理解と看護援助 4. 緩和ケア、グリーフケアについて							
<b>学習目的</b>	1. 罹患率、死亡率ともに高いがんの病態、症状、治療、看護の特殊性を理解する。 2. がん患者の苦痛を全人的に捉え、患者家族に対する看護援助の方法を理解する。 3. がん患者・家族のQOLを高める看護援助方法と看護の役割について理解する。							
<b>学習目標</b>	1. がん患者の病態、身体的特徴、治療の特徴について説明することができる。 2. 緩和ケアの目的と実際について説明することができる。 3. がん看護における倫理について説明できる。 4. がん患者の特徴的な身体的苦痛とその対応について説明できる。 5. がん患者の苦痛を全人的にとらえ適切な看護援助について説明できる。 6. 終末期にあるがん患者と家族の特徴を理解し、患者家族のニーズにあった看護援助について説明できる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	がんの特殊性	がんの動向、病態・治療の特殊性について						
第2回	がん看護における倫理的課題	倫理・看護倫理、緩和ケアをめぐる倫理的課題について						
第3回	緩和ケア	緩和ケアの歴史、緩和ケアの理念、緩和ケアの現状について						
第4回	がん患者の心理的・社会的・ 霊的苦痛と援助	がん患者の全人的苦痛と看護援助について、死生観について考える						
第5回	がん患者の身体的苦痛の 援助・薬物療法	がん患者の身体的苦痛と身体症状のマネジメントとケア、薬物療法						
第6回	エンゼル・ケア、家族・遺族 ケア	死後の処置の意味、家族・遺族ケアについて						
第7回	がん患者・家族の思い	がん患者の思いとそれを支える家族への支援を考える						
第8回	授業まとめ・試験	終末期患者に対する看護まとめ・試験						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
<b>教科書</b>	緩和・ターミナルケア看護論 ヌーベルヒロカワ							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上							
<b>履修の ポイント</b>								
<b>オフィス ・アワー</b>								

平成25年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅳ (多文化共生)		担当者	島田 啓介	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
	教職に関する科目	必修	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>・慣れることで見えなくなっている事象に「気づき」を向け、日常生活を新たな視点で見直す。身近な物事や人間関係や環境をはじめとして、日本・世界へと探究を広げ、異なる価値観への理解を深める。</p> <p>・授業は、学内・学外・日常という3つの場面を活用し、課題からのフィードバックを取り入れながら行う。</p> <p>・フィールドワークとして近隣の外国文化に触れ、日本に住む外国籍の子どもたちと医療、健康、食、家族、社会などをめぐって学び合い、実践的なコミュニケーション力を育む機会を持つ(予定)。</p> <p>・各授業の終わりに、「ふりかえり用紙」の記入によって各回の学びのまとめを行いながら進める。</p>							
学習目的	医療職として自分自身と対象者に向かい合う基本的な姿勢を培う。さまざまな価値観との出会いの中で、健康や人間関係などの諸問題にたいしてどのように受け止め取り組んでいくのかを考え、相手と自分自身を理解するための実践的なコミュニケーション力を磨く。							
学習目標	授業は全員参加の演習型。とくにグループワークや相互的な学習を通じ、各自の中に潜在する希望や動機を掘り起し、将来に活用できるような力を養う。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	多文化への視点。「違う」とは何か?						
第2回	自分に気づく・他者に触れる	自分の内と外にある多文化への気づき。ワークショップ方式で行う						
第3回	日常の中にある多文化	日常に触れる製品や情報にたいして新たな視点を持つ						
第4回	気づきと多文化	「気づき」の手法によって既知を未知としてとらえ直す						
第5回	当たり前を違った角度から見る	りわけ日常的な「食」「日用品」などをとり上げ、具体的に観察す						
第6回	何を知りたいかを深める	これまでの学びをさらに深めるためのグループワーク						
第7回	日本の中の多文化を見直す	時間軸・空間軸をずらすことで、自分の文化の既知を体験しなおす (映像資料活用)					教科書を使用する	
第8回	世界への視点	ひとつのテーマをとり上げ、世界を観る (映像資料活用)					教科書を使用する	
第9回	フィールドワーク 1(準備)	フィールドワークの企画・準備。学生中心に自主的に進める					予定	
第10回	フィールドワーク 2	外国籍(ブラジル)の人たちが多数在住する大泉町を訪問し、実地に体験する					予定	
第11回	フィールドワーク 3	外国籍(ブラジル)の子どもたちとの交流授業					予定	
第12回	フィールドワーク 4(まとめ)	体験のまとめ、フィードバック					予定	
第13回	実践の振り返り	今までの学びと、フィールドワークでの体験を照合する						
第14回	学習・日常への応用	演習での学びを日常・学習・仕事の現場で生かす指針をたてる						
第15回	総まとめ	全体の振り返りとまとめ						
教科書	「世界がもし100人の村だったら～総集編」マガジンハウス							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 課題の取り組み・発表内容と、提出物によって評価する							
履修のポイント	各回のレポート(ふりかえり用紙など)を確実にまとめ、次回へつなげること							
オフィス・アワー	メールによる相談・質問も可: jkeisuke@gmail.com							

平成25年度 シラバス

科目名	教育心理学		担当者	亀岡聖朗	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日	
	教職科目		(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達のどのような状況におかれているのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、可能であれば学生による「模擬授業」を実施する予定である。							
学習目的	青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを目的とする。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。</li> <li>2. 青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。</li> <li>3. 学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。</li> <li>4. 「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ガイダンス 教育心理学で扱う問題	講義の進め方、成績評価のしかたなどについて教育心理学で扱う内容について						
第2回	人生初期の発達①	人間発達の共通性、社会性発達の芽生え						
第3回	人生初期の発達②	認知の発達、発達の最近接領域						
第4回	青年期の発達①	青年期の心理的特徴、適応と不適応、適応機制						
第5回	青年期の発達②	青年期の発達課題、アイデンティティの獲得について						
第6回	障がいの理解	障がいの種類、障がい児・者の理解と対応						
第7回	さまざまな学習理論①	連合説（刺激－反応の結びつき）による学習のしくみと認知説（認知の変容）による学習のしくみ						
第8回	さまざまな学習理論②	授業における学習指導の理論、学習の個性化						
第9回	学習の規定因①	動機づけの理論、動機づけを高めるためには						
第10回	学習の規定因②	個性を反映するものとしての知能～知能の構造、知能検査、創造性						
第11回	学習の規定因③	個性を反映するものとしての性格～性格理論、性格検査						
第12回	学校と教育相談	生徒指導と教育相談、教育相談のあゆみとその方法						
第13回	教育評価	評価の意義と工夫、絶対評価と相対評価の違い、学力のとらえ方						
第14回	教授技法①	教える技術、伝える技術、授業づくり 模擬授業体験①（模擬授業についての説明と計画）					※実習を含む予定。	
第15回	教授技法②	模擬授業体験②（体験学習；発表）					※実習を含む予定。	
教科書	藤田主一・斉藤雅英・宇部弘子編『新 発達と教育の心理学』福村出版							
参考書	適宜紹介する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験85%、レポート・課題15%							
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待する。							
オフィス・アワー	11号館3階第8研究室にて、もしくは講義終了後などに、適宜設ける。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	教育課程論		担当者	占部慎一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
<b>授業の概要</b>	世界のカリキュラムの類型を認識し、日本の教育システムと教育課程の特徴を知る。実際に使用されているカリキュラムの基本類型を理解するとともに過去の著名な教育プランの目的、プロセス、特徴等を理解して、独自の教育プランをグループで作成して模擬授業を行う。教職に就くために必須である現行の学習指導要領の特徴と生きる力の育成についての理解を深める。学校現場での教育課程編成について概略を理解するとともに必要な教育評価を典型的に理解する。							
<b>学習目的</b>	世界のカリキュラムとカリキュラムの基本類型を体系的に理解する。グループで教育プランを考案し実践してみること、教師としてのカリキュラムを活用する実践力と教育創造力を育成する。学習指導要領を正確に理解し活用できる力をつける。教育評価を理解し、生徒の可能性を正しく評価し、伸ばせるようにする。							
<b>学習目標</b>	①カリキュラムや教育プランを典型的に整理でき、その特徴・特質を体系的に理解して学校現場で創意工夫・活用できるようにする。 ②学習指導要領を理解して、生徒の能動的で確かな知識の習得と定着を図り、豊かな心を育成し、健やかな身体を育て彼らの「生きる力」を形成できる教師としての資質を養成する。 ③教育課程の編成の概要と評価を理解して、教師として役立てることのできる基礎的資質を育成する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容					
第1回	教育課程（カリキュラム）の定		教育課程（カリキュラム）の語源・定義、カリキュラムの必要性・意義、日本のカリキュラムの二重性					
第2回	世界のカリキュラムの類型		子ども中心主義のカリキュラム、社会効率主義のカリキュラム、社会適応主義のカリキュラム、社会改造主義のカリキュラム					
第3回	世界のカリキュラムと日本の教育課程		①模倣様式の教育と創造様式の教育、②フォーディズムとカリキュラム、学校教育目標、学年目標等におけるフォーディズムの影響、③人間形成尊重とヒドンカリキュラム					
第4回	カリキュラムの基本類型Ⅰ		教科カリキュラムと経験カリキュラム ①相関カリキュラム、②融合カリキュラム					
第5回	カリキュラムの基本類型Ⅱ		③広領域カリキュラム、④教科型コア・カリキュラム、⑤経験型コア・カリキュラム、（ブルナーのスパイラルカリキュラム）					
第6回	学校状況とカリキュラム		小テスト①（教採過去問）、学校の目標・生徒状況とカリキュラム					
第7回	過去のカリキュラム開発Ⅰ		デューイの子ども中心主義教育思想の系譜：①プロジェクト・メソッド、②ドルトン・プラン、③ウィネトカ・プラン					
第8回	過去のカリキュラム開発Ⅱ		ヘルバルトの系統主義教育思想の系譜：①モリソン・プラン、②イエナ・プラン					
第9回	授業実践とプランニングⅠ（プランニング実践）		生徒実態の把握、問題点の背景と構造、教育内容の再考、スコープとシーケンス、順次性、PDCAサイクル、マインド・マップづくり、プランニング、効果と欠点、試行					
第10回	授業実践とプランニングⅡ（プランニング実践）		実践、振り返り、相互講評			小テスト②（教採過去問）		
第11回	学習指導要領の変遷と成立過程		社会的背景と変遷、アメリカ教育の影響、産業界の変化と教育の変化、私事化と公共性の喪失、法的拘束力の変化、成果と課題 グローバリゼーションと消費・情報化社会					
第12回	現行学習指導要領の特徴（総則を読む）		生きる力の育成、人生の主人公（言葉と認識・思考・判断、理数系科目の学力向上、伝統文化の重視）、道徳教育の充実、体験活動の充実、英語教育の導入					
第13回	生きる力の形成構造		能動的知性の涵養、体系的知と内面からの喜びの知の統合、＜我の世界＞と＜我々の世界＞を生きる力の育成、確かな学力の育成の4層、豊かな心の育成、健やかな身体の育成					
第14回	教育課程の編成の実際		編成の意味、原則、実施上の配慮事項、学校教育目標への収斂、編成の手順、カリキュラム・マネジメント					
第15回	教育評価		教育評価の意味、視点、教育評価の変遷（量的評価から質的評価へ、他者評価から自己評価・相互評価へ、評価時期と評価目標による分類）					
<b>教科書</b>	豊かな学びを育む教育課程の理論と方法 田沼茂紀 北樹出版							
<b>参考書</b>	新しい学習指導要領の理念と課題 梶田叡一 図書文化社							
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上							
<b>履修のポイント</b>	教職への志と情熱が求められます。1年次の科目に比べレベルが高くなっています。理解のための努力が大切です。							
<b>オフィス・アワー</b>								

# 平成25年度 シラバス

<b>科目名</b>	生徒指導論		<b>担当者</b>	田口和人	<b>学科</b>	看護学科・栄養学科	<b>開講期</b>	後期
<b>区分</b>	教職科目	必修	<b>単位 (時間)</b>	2 30	<b>学年</b>	2年次	曜日	
							時限	
<b>授業の概要</b>	子どもたちを取り巻く状況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包してきています。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり・薬物・学級崩壊など、多くの学校でみられるような教育問題が存在しています。生徒指導はこれらに対処することが求められています。これらを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師がそなえ持つべき要件はなにか、を基本的な柱として考えたいと思います。							
<b>学習目的</b>	子どもたちの背景にあるものを、広く・深く洞察できるような知識・観点・考え方の学習を目的とします。							
<b>学習目標</b>	次の4つを学習目標とします。 ①学校教育の歴史・現状について認識を深めること ②子どもたちを取り巻く状況についての認識を深めること ③子どもの背景にあるものへの各自の洞察力を育てること ④生徒指導への大胆なアイデアをもつように努力すること							
<b>授 業 計 画</b>								
<b>回</b>	<b>主 題</b>	<b>授 業 内 容</b>					<b>備 考</b>	
第1回	現代社会と子どもたちの現状	これまでの自分自身の経験も含めながら、子どもたちがどのような社会状況の中に置かれているかについて考える。						
第2回	学校教育の現状	視聴覚教材により、今日の学校教育の現状について考える。その上で、感想・意見などをレポートする。						
第3回	学校教育の歴史過程	戦後の学校教育の歴史過程を大まかにつかむ。						
第4回	学校教育における生徒指導	教科教育と教科外教育の関係の中で、生徒指導の位置を理解する。また、学習指導要領における生徒指導の位置を理解する。						
第5回	子どもの内面への接近	視聴覚教材（楽曲）により、子ども・青年の内面世界への洞察を試みる。その上で、感想・意見などをレポートする。						
第6回	携帯・ネットと生徒指導	社会的問題となっている「携帯・ネット」について、子どもの現状を踏まえながら考える。						
第7回	ジェンダーと生徒指導	ジェンダー（社会的性）による生活・行動様式について、現状と今後の展望という観点から考える。						
第8回	不登校と生徒指導	不登校（あるいは「引きこもり」）の現状へ理解を広げながら、子どもたちの背後にあるものについて考える。						
第9回	いじめと生徒指導Ⅰ	視聴覚教材を用いて、いじめをめぐる現状についての理解を深める。その上で、感想・意見をレポートする。						
第10回	いじめと生徒指導Ⅱ	いくつかのいじめ事例を読み解きながら、いじめの構造へ理解を広げる。						
第11回	進路指導	景気低迷・格差社会のなかで、どのような進路指導が求められるのかについて、意見交換をしながら、その展望を考える。						
第12回	生徒指導の方法Ⅰ	中学校の「学級活動」の1時間を想定して、生徒指導の方法について考える。						
第13回	生徒指導の方法Ⅱ	中学校の「学級活動」の1時間を想定して、生徒指導の方法について考える。						
第14回	生徒指導の方法Ⅲ	中学校の「学級活動」の1時間を想定して、生徒指導の方法について考える。						
第15回	まとめ	子どもたちが抱える今日的な課題について、生徒指導の観点から自分なりの分析をレポートにまとめる。						
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布します。							
<b>参考書</b>								
<b>成績評価</b>	単位認定 60 点以上 筆記試験70%以上 レポート30%以上で評価等							
<b>履修のポイント</b>								
<b>オフィス・アワー</b>								